

# Journal

目次

## 特集：JIAの周縁

提言：支部主導で使命を果たす	松原 忠策	2
座談会：これからのJIA		4
出席者：安達治雄・小澤勝美・竹内壽一・左 知子		
JIAと市民の接点から：		
「あすなる建築集団」JIA	松下 重雄	10
市民とともに文化の土壌を育てる	金子 修司	11
JIA会員の予備軍	亀井 正浩	12
2つの疑問に答える	左 知子	13
会員減少を憂えるより活発な活動を	柴田 幸夫	14
対市民活動から得たもの	吉田 晃	15
何もないと豊かになる	中山庚一郎	16
市民と共に保存活動	桐原 武志	18
エネルギーを秘めた娯楽という非日常の世界		19
なぜ日本の街はちぐはぐなのか	鈴木 稔	20
JIA継続職能研修 (CPD) 申請書		22
投稿を歓迎します		23
選挙公報		24
地域会だより：埼玉・栃木・中野・山梨		28
活動日誌・活動予定		30
イベントセミナー情報		32
技術情報シート		
環境問題に絡む最新の技術情報		33
変革の時代の建築家資格制度	米澤 正己	37
編集後記		37



社団法人日本建築家協会  
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館  
Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294



## 特集：JIAの周縁

提言

## 支部主導で使命を果たす

幅広い表彰制度と教育事業の提案



関東甲信越支部 支部長 松原 忠策

Bulletin2月号は特集で刺激的なタイトルが巻頭をかざりました。「JIAは危機的状況」につづいて若手建築家の座談会が掲載され、「若手建築家はJIAに何を求めているか……」、「市民は建築家に何を求めているか……」というアンケートがつづきました。一方JIA本部では建築家の資格や、CPD、そして会員の会費や会員の制度にメスを入れようとしています。本部・支部それぞれの立場でJIAの将来をどのようにとらえるかについて真剣に取り組んでいる結果です。JIAの将来は建築家の未来像と深くかかわります。そして一つ一つの建築はもちろん、国土や街を美しくするために、実力を備えた多くの建築家の存在が望まれます。そのような建築家がわが国に何人ぐらい必要なのでしょう。ともかくそのような建築家が個々にがんばってその職能を全うする努力が必要ですが、それ以上に力をひとつにして一般の社会にその仕事の大切さを訴えることが重要です。それをサポートすることがJIAの本来の使命でしょう。

そのJIAが危機的状況にあるというのは、その使命を果たしていないからかもしれません。JIAはその使命を果たすためにまず多くの実力のある建築家を集めなくてはなりません。そして集まった建築家が力を結集して、よい建築が、都市や街を美しくするだけでなく、市民の生活を豊かにすることを市民や社会に訴えなくてはなりません。本来、この二つのテーマについてより多くの議論がおこなわれるべきであり、その結果として、効果的な施策が実施されるべきでしょう。

その意味で、Bulletin2月号の特集は多くの示唆に富んでいます。それはあの二つのアンケートが今まさにJIAがやらなくてはならない問題を提起していると思います。さらに若手建築家の座談会ではその方法について具体的な提案まであります。私は支部長としてこの特集からJIAの危機脱出に有効と思われる項目を抽出して、その実行がどうしたら可能かということをおお勢の会員に問いたいと考え、以下にその事項をまとめてみました。

## 実力のある多くの若い会員を集めるための事項

## ■入会の動機は何か（JIA以外の建築職能団体も含めて）

- ・コンペに応募するために                                 : 建築士会
- ・作品選集に応募のため   : 建築学会
- ・建築家賠償保険に入ること                                 : 建築士会・JIA
- ・建築セミナーを受講して                                     : JIA

## ■JIAに望むもの（会員・非会員とも）

- ・建築家の仕事市民に理解されるためのPR
- ・建築家同士の情報交換
- ・技術的知識習得のための講習
- ・法律改正などの情報の提供
- ・業務や経営に関するサポート

## ■JIA会員になることに躊躇させる事項

- ・会費が高い
- ・会員になるメリットがない
- ・推薦が必要など入会の手続きが面倒

## JIAや、建築家の仕事を

## 一般の市民に理解してもらうための提案

- ・建築セミナーの拡大：対象を建築の関係者だけでなく、中小生や、生涯教育のためのプログラムまで用意する。
- ・JIA機関誌の「建築家architects」を一般書店で販売する。
- ・JIA新人賞などの賞だけでなく、建築や建築家の存在や活動を社会に対して紹介する。

以上がBulletin2月号の特集から引き出した項目です。これらの項目に応えるべく本部では会費の見直しや職能研修プログラムなど、すでに多くの努力がなされていますが、さらに私なりにいくつかの施策を考えてみました。

## 会員を集めるために実施したい会員の表彰制度

JIAは、実力のある若い多くの会員を表彰するために、会員のいろいろな実績を細かく区分して、それぞれを評価するシステムを構築することが必要ではないでしょうか。これについてはJIA新人賞や、環境賞がありますが、

これらの賞は新人の発掘、良い環境を作るためという目的で制定されました。しかしこれからはそれらの目的だけでなく、会員の優れた業績を社会に広く紹介することを目的としたものがJIAの存在を示すためにも、多くの会員を集めるためにも必要です。またこれらの賞に応募するために、今年からは会員の資格が必要となりましたが、今までその規則がなかったことが不思議です。座談会の記事にもあったように、建築学会に入った動機に、作品選集への応募のためとありましたが、私もその一人です。JIAは会員の実績を評価するためにその裾野を拡げて多くの会員の努力を評価すべきです。たとえば住宅部門でも、戸建住宅や集合住宅を区分して、さらに高齢者用の住宅部門とか、長命住宅の改修部門など、それぞれの分野で評価すればよいでしょう。また設計事務所の所長だけでなく、実際に責任を持って担当した所員の評価もされるべきです。その結果ラージファームの所員にもJIAは身近になるでしょう。また、アトリエ系の所員にも適用されるケースは多々あると思います。その他あらゆる分野の専門的な業績も評価し、それを一般市民に発表することが大切です。そしてこの評価をCPDにつなげなければいけません。これこそJIAの会員であることの最大のメリットです。現在、建築家がその作品を発表する機会は、「新建築」などの雑誌や、学会の作品選集がありますが、「新建築」が年間約200点、作品選集が100点でそのほか住宅専門誌などですが、JIAは独自の評価をおこなって、創造性だけでなく、実在性のあるすぐれた建築を年に200～300件は表彰したいものです。この数は学会がおこなっている論文などの表彰の数には遠く及びません。

#### 教育事業についての提案

JIAが教育事業をしっかりとした概念のもとに組織的に展開する必要性は特集の記事を見るまでもないでしょう。教育委員会は本部にも支部にもあり、それぞれ活発に活動しています。しかしJIAは教育事業の重要性を意識していても、その目的と効果を組織的にとらえて実行しているかという点必ずしもそうとは思えません。関東

甲信越支部では代表的な教育事業である建築セミナーや卒業設計コンクールは、教育委員会に属する実行委員会が開催しています。しかし肝心の教育委員会は、建築家のメモ展やその他の事業を別の形で催して支部の教育事業を統括しているわけではありません。そのほか総務委員会がJIAトークという教養セミナーを、交流委員会も同じような交流セミナーを、さらに部会活動としてもデザイン部会がデザインセミナーなどを開催しています。このほか来年からは学生を対象にしたオープンスクールの開催を本部から支部に移す要請もあります。このように数々の教育というジャンルで括れる事業が実施されていることはJIAにとって大事なことですが、それを統括して対象や目的をはっきりさせることが重要です。

このことについて教育担当の内藤副会長が全支部に対して教育事業の大切さとその収益を見通した事業性の構築を提案しています。関東甲信越支部ではそれぞれの事業の収益はすべてプラスとなっていますが、これからは対象を会員、学生、一般社会にわけ、会員向けには会員だけでなく設計業務をおこなっているすべての人たちもふくめ、学生は建築関係の学生だけでなくその他の学部の子生も対象とし、一般社会に対しては、小中高生徒や生涯教育までの一貫したプログラムを用意し、すべての建設関連企業のトップや技術者、営業部員に対しても魅力ある教育事業の展開が望まれます。

このような施策を実行するために、次年度から支部に教育を統括する副支部長をおき、すべての教育に関連する事業を見直し、CPDのデータとの関連も整え、対象と目的を明確にして、欠けていると思われる部門を強化したいと考えています。また幅広い表彰制度は来年のJIA大会に目標を定めて関東甲信越支部が主導してその構築を目指したいと思います。そして最近いろいろなメディアで取り上げられている建築相談や、保存問題のようなJIAの活動とあわせて、JIAがよいと認める建築作品の広報や、建築全般に関する教育を市民に広げることがJIAの最も基礎的な活動だと考え、それを行動に移します。

〈松田平田設計〉

## 特集：JIAの周縁

座談会

## これからのJIA

出席者：安達 治雄，小澤 勝美，竹内 壽一，左 知子

司会：高木 恒英（広報委員会委員長）

JIAを取り巻く市民社会との接点に光をあて、JIAを足元からみてみようという特集「JIAの周縁」。今号はその後半です。

2月号では、レポート「JIAの会員構成の変化」、座談会「若手建築家とJIA」、アンケート報告「若手建築家はJIAに何を求めているか」、アンケート報告「市民は建築家に何を求めているか」をお届けしましたが、今号では、それを受けて、今後のJIAという視点で、支部長、委員会、部会、地域会会員の意見などを掲載いたします。

巻頭では、松原支部長の提言を掲載しました。

このページでは、安達治雄会員（JIA中野クラブ・他）、小澤勝美会員（JIA神奈川・他）、竹内壽一会員（JIA建築セミナー・他）、左知子会員（首都圏相談室・他）の出席で行われた座談会をお届けします。なお、この座談会は2時間に及び、テープ起こし原稿を約4分の1に編集したものです。

**司会** 今日はお集まりいただきましてありがとうございました。「Bulletin」では「JIAの周縁」という特集企画を2月号と4月号に組んでいます。2月号では、現在のJIAが抱えている問題点が幾つか浮かび上がってきたような気がします。今回はJIAで特に市民と接するところで活動をされていらっしゃる皆さん方に、今後のJIAについてという切り口でお話をいただきたいと思えます。まず最初に、2月号をごらんいただいてどのように思われたか、簡単に感想をお聞きしたいと思います。

**竹内** 正直言って30代の人が30人という数字を見て、ふだんの活動の中ではとてもそんなふうと考えられなかったのが驚きました。と同時に、私は30代半ばに入会し同じようなメンバーと付き合いきましたので、自分がいつの間にか年齢を重ねたことが分かりにくかったというのが正直なところ。これは益々年配の方が主導する社会を反映するのではないかとすら思いました。

**小澤** 私もそう思いました。それを逆にいいほうに解釈しますと、40代後半から50代、60代になってやっと建築家になれたんだということを考えますと、ステータス性ある資格というものも一つあるのかなということ、それをもっと前向きにとらえることも必要なのではないかと。人数は減っていますが、僕はそんなに悲観はしていません。それなりのことをしていけば、必ず人数がついてくる。ですから今はそれなりのアピールが

できていないのではないかと気がします。

**左** 私は平均年齢の高い環境の中にいるので、30代が30人ぐらいというのは、30人もいるんだなという逆の思いがありました。だんだん平均年齢が上がるといえるのはある意味で、知的で思慮深いグループになっていくというふうにとらえればマイナスでもないと思えます。そんなにあたふたすることもないのでという気はしておりますが、危機というとらえ方もあるわけですね。

**安達** グラフについては時代のヘゲモニーがそのまま移動しているわけで、我々の世代とっていいの、ずっと時代の主役であり続けられる嬉しさはあります（笑）。座談会については、若い世代の言っている建築家とJIA内部で考えている建築家とどうもカテゴリーが違うから彼らが入会しにくいという、それは言葉の裏に何となくちょっとは出ているなと思えます。

**JIAは敷居が高い？**

**司会** 安達さん、若い世代が言ってる建築家とJIA内部で考えている建築家のイメージが違うというのは、具体的に言うとどのようなことでしょうか。

**安達** 旧家協会時代から建築家はプロフェッションであってビジネスではないという感覚のもとに、我々は何か共通意識を持っている。少なくとも僕の世代まではそれが続いているように思うけれども、少し後の世代から先はビジネスでいいじゃないかと割り切っている人も多いようです。そうした中で建築家協会というのは、彼ら

からしてみると敷居が高いといいますが、何か非常に倫理を守るための団体で、そうではない人たちはいかんというように分断を彼らは感じるみたいです。地域会で協力会員というシステムで勧誘をかけている中で、会費問題もあるけれども、もう一つにはそういう部分があるように思います。だけど、それは我々側の説明不足・努力不足なんだろうが……。

**司会** 若い人たちから見るとJIAというのは非常に見えにくいということもあるような気がします。どこかでもう少し重なり合う部分、そういう機会を増やしていくとか。竹内さんは建築セミナー実行委員会で若手の方々と接する機会が多いように見受けられますが、そのへんはどうお感じになられますか。

**竹内** 私自身の体験から申しますと、私にとってJIA、というより旧家協会は憧れの対象だったのです。少数かもしれないけれども昔の私のような純な気持を持った人がいるかもしれない。そんな人を大事にしたいという気持が素朴なレベルで私にはあるんです。

**司会** 実際に若い人たちと接しておられて、竹内さんが若いころにJIAに入会したときの志みみたいなものと、今の若い人たちというのは同じようなものなのか、あるいはやっぱりこれはちょっと違うところがあるのでしょうか。

**竹内** 違うところというよりも、同じところに着目したいと私は考えています。いい講義を聞き、いい空間を体験することはやはり大事なことです。多年齢や職種が違う人たちが集まって、一緒に講義を聞いて感動して、その余韻を酒のさかんな仲間内で反芻していく、またそういう仲間ができる良さがあると思います。

#### 若手建築家たちが求めるもの

**司会** 若手の人たちへのアンケートの結果を見ますと、建築家との交流を求めている人は20%。それよりも自分たち建築家の仕事を市民に理解してもらうためのPRをJIAがしてほしい、という結果が出ています。座談会に出席した若手建築家の方々も言っていました、何もJIAに入らなくても気心の知れた仲間どうして情報交換や交流ができる環境はそれなりにあるようです。JIAはあこがれの建築家の先生にお会いできる場所だということなことだけでは、若い人たちはついてこないのではないかと思います。どうでしょうか。

**小澤** そんなに我々のときと気持といいますが建築家に対してあこがれというのは、そんなに変わっていないと思います。ただ、これだけきつい社会環境の中でやっているの、違う会で情報は得たいけれども時間的な問題とかで入れない。そこまで余裕がいかないというようなことではないかと思えます。驚いたのは、市民にPRをして欲しいという意見ですが、これはすばらしい意見をお持ちだなあと嬉しくなってしまうようなことです。我々のときはそこまで私などはまだいってなくて、あこがれというんな環境の中で人の輪を広げたいという意味で入ったわけですから。

**司会** 若い人たちの求めているものがあるとすれば、それに対してJIAとしてある程度若い人たちのニーズに応えていくべきなのか。

**安達** 「市民に理解してもらおうPRをJIAにして欲しい」と言われても、他力本願の部分には手を差し伸べる必要はない。それはむしろ彼らが社会とどう対峙するか、彼らがどう衿を正すかの問題。特に、アンケートで「建築家」って無定義に使っているけれども、例えばプロデュース会社の傘下に入るような建築家像と、日本建築家協会の建築家像とが峻別してとらえられてはいないのではないかと。もちろん若い世代から伝わってくるメッセージはちゃんと聞かないといけませんし、我々に見えない問題点も見えているならばそれはどんどん取り入れなければいけないと思いますが、若手建築家に何かコミットするというのでいえば、むしろ4年制なり大学院なりの授業に職能教育の類を持ってもらって、いわゆるインターンの部分で職能教育を出張してでも押し売りしてでも、ちゃんとやるというぐらゐの積極性をJIAは持っていてほしい。そうでないと、本来建築家が持っている使命みたいなものから遠いところで、ビジネスに組み込まれた消費材としての「建築家」が増えてしまう。

#### 建築家としての社会的意識

**左** 先ほど小澤さんが、若い方が社会にPRして欲しいという要求を「評価」していらしたのですが、突っ込んでみるとどうなるかなと。どうも若い方の社会性が我々の世代のときよりも低いというか、社会と対峙する接点が少ないような気がします。思い違いであれば、それはすばらしいと思えますが。学生たちと接して見ると、相手が自分に近寄ってきてくれるのは求めるけれども、

## 特集：JIAの周縁



安達 治雄氏  
(有)ASCO. partners 協同主宰



小澤 勝美氏  
(株)ユー・アール・ユー総合研究所 主宰

自分が近寄るといのはとても億劫に感じている。だから社会が近寄ってきて欲しい。もうちょっとJIAが下がってきて欲しい、自分の価値観に近寄ってほしいというのがあるのかなと、思っていました。

司会 2月号の座談会の若手の方のお話でいうと、自分はクライアントに対して建築なり建築家の職能なりを伝えたいけれども、なかなか自分一人では伝えきれないところもある。そういう部分をJIAがもっと市民に伝えて欲しいと。

左 その職能って言葉自体がどういうふうにとらえられているかということですが、例えば高邁な奉仕精神とか理念であるとか、そういうもの以上に「自分が表現したいことを受け入れてくれる態勢」みたいなふうにとらえてしまうと、またちょっとカテゴリーが違ってきているのではないかという気がします。

安達 私自身も含めて住宅がメインになっているような建築家の層についてみると、社会を変えようという意識がもっと必要でしょうね。かつて大江宏さんが公取と闘ったような、あそこまでやれというのは今の「協調のJIA」からすると何とも言えないけれども、少なくとも無料コンプレクシズムみたいな風潮に対しては、違うんだということを勇気をもって、それで仕事が減ろうがはっきり言えるようじゃなければ、自分の首を締めてしまうと思う。言うべきことはきちんと行って。当たり障りのないところできれいな事だけ言うんじゃないでやっていけば、じゃあ我々もその一翼を担おうと思っている人は必ずいると思います。こっちから擦り寄っていく問題とは絶対違います。

左 私もそう思います。あんまり慌てずに地道に自分たちの信念を貫いていけばよいのではないかと思います。市民相談の中でも、JIAの知名度は確実に広がっているというのが感じられます。あちこち回ってきた結果JIAの相談にきた、建築の本当の専門家だけの団体だということが受け入れられているのを感じますし、彼らの口からその言葉が聴かれます。先達者の行為が少

しずつそうやって評価されてきているということを見ると、今慌てることはないというのが実感です。

### 建築家ブーム

司会 ちょうど今日仕事をやりながらラジオを聞いていましたら、若手の建築家へのインタビューをやっていたんです。その中でパーソナリティーが「今は建築家の時代」という言葉を使っていました。じっさい現在一般雑誌あるいはテレビでは、本当に建築家が頻りに登場します。今回、市民の人たちへアンケートをとったら、非常に意外だったんですが、実に97%の人が自分が家を建てるなら建築家への依頼を検討したいと回答している。これは間違いなく一つのブームになっていると思います。前回の座談会で吉川さんが、このブームをJIAが利用しない手はないだろう。ただし、このブームが終わるときには揺り返しが来るのではないか。そのときにJIAがどう対応しているかということが重要ではないかということを書いていました。確かに今一つのブームで、それを支えているのは若手の建築家の人たちだと思います。そういう中でJIAとして社会に対してどう伝えていくのかというのは、今非常に問われているときではないかと思いますが、その辺はいかがですか。

左 ブームに乗らない建築家というのを世に出したらいいかも(笑)。ブームというのはやはりブームです。建築は耐久消費財ではなくて、蓄積すればするほど価値が上がっていくものだというヨーロッパの建築と同じような価値観を積み重ねてアピールしていかないと。JIAが一般市民を消費者という言いかたをしていますでしょう。あれは非常にいけないと思います。経済社会の言いまわし、おかみの価値観を踏襲してしまっている。JIAとしては、一時の流行の中の建築家じゃない、普遍的な建築というものをアピールしていくべきではないでしょうか。

小澤 皆さんデビュー作は大体35~40歳ぐらいですよね。僕はちょっと遅いでしょうけれども、それがブームを呼び起こしているとするれば、それはそれでいいと



竹内 襄一氏  
(株)竹内建築総合研究所 主宰



左 知子氏  
(有)左知子建築研究室 主宰

思います。ただ変な方向に行かないように、協会なりが監督していないとまずいのかなという気もしないではないです。

安達 建築家ブームというのは、ハウスメーカーに対するオルタナティブなんです。だからハウスメーカーの逆襲がもうすでにあって、いろいろなメーカーで建築家メニューというものを揃えている。僕が言いたいのはJIAは「建築家協会」としてそれでいいんですかということです。地場の工務店だって建築家メニューと称してこういう建築家を揃えていますよというようなことになっていて、そういうふう到我々の足元が非常に危うい状態にある。これらに対しては危機感を持ちます。で、逆説めきますが、2月号を拝読して、でもやはりビジネスとしてとらえていくときには非常にいいチャンスだと。もうこの際、全員がビジネスでいいんだ、建て主たちもJIA的な建築家像は求めないというふうに、社会全体として歴然とした決着がつくのだったらJIAもそういうふうに変わったって仕方ない、社会全体が無分別なんだ、という表現もあり得る。だけど今のところJIA会員のきっと90何%はそうでないと。さっきカテゴリーが違っているんじゃないかと言ったのは、そういうことです。

#### マスメディアへの対応

司会 僕が問題に思うのは、建築家ブームをつくり出しているメディアというのは、テレビのプロデューサーであるとか雑誌の編集者であるとか、そういう人たちの建築に対する知識が非常に未熟な状態で番組がつくられ、記事がつくられ、一般の人たちに広まっていくというのが非常に恐いなという気がするんです。じっさい、雑誌の編集者なども結構知識は欲しているんです。けれども話を聞いてみると、かなり根本的なことを知らなかったりする。そういうメディアに対してJIAとしてきちんと何か伝えるべきこともあるんじゃないかという気はします。その辺をお考えになられることはありますか。

小澤 メディアの力というのは恐ろしい。メディアを利用するというのはあまりいいイメージにとらえない人

が多いでしょうけれども、やはり使うことは使ってやらないと太刀打ちできない。手段としては必要だと思いません。

司会 ただ単に背中を向ければいいというものではないんじゃないかという気がするんですが。

左 背中は向けていないと思うけれども、太刀打ちするには相当エネルギーをかけて本当に真剣に太刀打ちしないといけないマスメディアですから。タイムリーなポイントで、社会に挑まなければいけない、また、発信できる場であって欲しい。

#### 教育活動

司会 JIAとしての社会への働きかけという点では、根本的には一般市民に対する教育の問題というのがあるように思うんです。この辺はどうですか。

竹内 教育活動は、仲間を増やす運動でもあると思います。団体には入会適齢期があって、学会は卒論を翌年の大会で発表する23歳頃、士会は建築士受験やコンペ応募時の25歳頃。JIAはというと、修行期間を終え事務所を構える時で、30代後半でしょう。他団体より10年以上遅いわけです。じつは、ある都立高校と近隣の大学間で単位の相互認証の動きがありまして、高校生がその大学の講義を受ければその高校の単位として認められ、その高校生がその大学に進学すれば単位は取得済と見做されるんです。これをCPDに応用して、若年層が少しでも早くJIAと出会い活動に参加すればCPD単位取得済書を渡すということも有効かな、と思います。それと、できれば義務教育の中にJIAの会員が乗り込んでいくことも大事なんじゃないかと思います。例えば小・中学生ぐらいの特別授業の中に組み込んでもらって、建築の面白さをわかってもらう活動をJIAの会員がやっていく。建築家、建築家と言わずに、例えば木材を縦と横につなぐだけでこういう空間ができる、レンガを積んでいったらアーチもできるとか、建築の面白さを分かってもらうことがまず大事なんです。話を聞いた人に、広義での建築界の中に入りたいなと思わせたら大成功だ

## 特集：JIAの周縁



高木 恒英 (司会)  
広報委員会委員長  
(株)インターセクション 主宰

し、造る人もいれば考えを図面にまとめる人もいるんだということを知ってもらえばもっと嬉しいと思います。

**司会** 小澤さん、JIA 神奈川では実際に小学校教育に会員が関わるといようなことを実践されているようですが、実際にやられていかがですか。

**小澤** 小学校の生徒さんと一緒に街を見るということをやりました。全国の教育委員会、文科省がやっている授業の一環なんでしょうけれども、街に関することをテーマにして1年間勉強する。その中で我々が授業をするんです。3日ぐらいでしたが、実際に見て歩いて、自分たちでまず疑問点、課題みたいなものを整理する。そこでどうしたらよくなるかという次の目標みたいなことを書いたり、自分たちの街に当てはめて将来どういう絵を描きたいとか、そんな自由なストーリーでやりました。生徒の質問に答えられない場合があるんです。ピュアにものを、街を、人を見ているんです。それは我々にとってもいい勉強になったと思います。

### 市民活動

**司会** JIAが社会に対して伝えていくというのは、テレビに出るとかということはあるでしょうが、地域に根ざした地域会の会員とか、そういう人たちが学校とか街づくりとか、そういうものを通じて直に市民と接する形で伝えていくということがベースとしてあるような気がしますが。

**安達** 子供たちと「公園に街をつくる」イベントを中野地域会と事務所協会中野支部との共催でやったりとかしますし、市民との接点はいろいろあるんですが、地道な活動なのでもう少し訴求力をどうするか。まだ市民になかなか活動の全容も伝わりにくいし動員力も足りません。やっぱりマスメディアの力は大きいなという気はします。

**司会** 街づくりとかそういうところの接点で市民に伝えていく部分というのは結構あるんでしょうか。

**安達** それはJIAの枠を外して、この前、警大跡地に

ついてコンクールをやったように……。事務所協会、区民団体、いろんなグループ、枠を外してやったんです。そういうのは盛り上がりますが、「職能の旗」をあまり振ると浮いちゃいますから、JIAも市民としてやる。そういう風に建築家もお高くとまっていなくて頑張っているというメッセージはとりあえずは出しています。

**司会** 神奈川ではどうですか。市民との接点という場ではガリバー展という大きな催しもありますね。

**小澤** これは模型展ですけども、我々の模型、学生さんの卒業コンクールで受賞した模型、市民の方が飛入りで出される模型、いろんな思いでつくった模型がドサドサと並んだような風景ですが、あのガリバー展はもっともって発信できるツールになると思います。

**竹内** 本部と支部と地域会という三つのスケールの違うものがあって、支部だからできるもの、地域会だからこそできる事業があると思います。同じようなものであってもバッチングすることなく、分担しながら効率よくやっていくことが必要なのではないのでしょうか。

**小澤** 国は貧乏でも地域が輝いていれば、恐らくうまくやっていけるとは思います。イタリアみたいに誇りある人々は心が本当に裕福なんです。国はすごく貧乏ですけども。

**竹内** そうですね。だから実際に一般の方と接する人たちが元気でなければ活動自体が活発になりませんし、長続きもしないと思います。やはり組織の足腰が丈夫だということは、直接窓口になる人たちが元気であるということでしょう。これが一番大切なのではないかと。

**左** そういう組織体制をつくっていかないと、今のままだと危ない気がします。事務局の運営すらも支障があるのではないかと心配しています。

**司会** 市民から見ると、JIAの考える建築家というのが非常に見えにくい。だからJIA側でそれを伝えていく努力は必要だと思いますが、それは、地域会なり委員会、部会なりの活動の中でいかにして一般市民や若手の建築家を取り込んでいくか、自分たちの仲間引き寄せていくかという発想が必要になってくるんだろうと思います。若手に入会してもらっても、単にパンフレットを渡して入れというのでは入らないでしょう。やはりセミナーに来てもらうとか、部会や地域会の活動に参加してもらう中から積極的な若手が増えていくという形に持っていけないとだめでしょうね。



### 徒弟制度と職能教育

**安達** 私は、建築家としてのスピリットというのは徒弟制度的に伝わるチャンネルしかあまり想定していなかったもので、JIAが若手に伝えるとしたら、建築セミナーなどで徒弟制度でなし得なかった部分を補うといったようなものはあるでしょう。それとさっきの大学への出前出張も、職能教育の講座を何回かわからないけれども押し売りでやりたいという、その二つのチャンネルがポイント。JIAの中で建築セミナー以外にやる方法というのはどういうものがあるだろうか。

**司会** それこそJIAで日常的にやっているセミナーであっていいと思います。そういうのを聞いてみたいという若い人たち、学生、市民がきっといると思います。そういう人たちが少なくとも情報を得て、そしてJIAを訪れて受講できるという体制ができれば違ってくるんじゃないかという気がします。特に変わったことをやらなくても。

**左** そういうことはありそうですね。普通のセミナーでもJIA会員に限らないものが多いので、会員でない友人を誘って聞きにきたり。やはり来てもらう、見てもらうことですね。自発的に入会していただくというのが大事で、引張られて入った方は、一時の数の応援にはなっても長続きしないのではないかと思います。

### 建築家と建て主をつなぐ

**司会** 今回の市民へのアンケートで、建築家に頼みたいけれども、自分に合った建築家を探すのが難しいという回答が7割もありました。住宅部会で市民向けのセミナーをやってみて、「建築家に家の設計を頼みたいと思うけれども、どこに相談すればいいのでしょうか」と聞かれることがあります。すると、JIAにはこういう名簿がありますとか、ホームページに情報がありますとかというくらいの返事しかできないわけです。実際、建築家という人は結構多いわけですが、それに対してJIAは何も知りませんよということで本当にいいのかという気もします。

**安達** プロデュース業の下にそれこそ頭（こうべ）を垂れて参加するぐらいだったら、自助努力としてはそういう考え方があるんじゃないですか。であればJIAの倫理規定に合致したやり方でやれば紹介制度が成り立つ可能性はあると思います。

**左** 相談に設計者選定依頼という項目があって、年

に1、2件あるわけです。その中で成立するのは数年に1件ですが、けっこう入った手続を踏んでもらったうえで建築家側から応募して、依頼者に選んでもらうということをしています。相談室ではなくて、地域会に窓口があれば、そのほうがいいのかもしれないです。会員内向けの気遣いの中で、公平さと、依頼者側に立った選定ができる条件を作るのは並大抵のことではありません。

**竹内** 過度に公平性を求めるあまりに煩雑な手続を踏むことになるのは、本末転倒だと思います。頼みたいと思う側も気軽に声をかけているのに、そんなに大げさにしてもらっては困るという考えも絶対あるはずですね。

**司会** 相談会で親切に相談に乗ってあげて、結果的に仕事を頼まれたら、JIA的にはだめなんですかね。

**安達** 相談委員会は公正に相談を受けるということをしてJIAから委任されているのであって、協会としては、後はあなたの自己責任で勝手にどうぞとは言えないでしょう。つまり公的な機会を裏で個人で使うのは問題になる。相談委員会という、団体を背負う体裁ではなくて、ちゃんとしたお見合いの場として動機をオープンにして公明正大に個人を出す形式にするならいい。

**左** 今は、責任問題に慣れた相談員が当たっていますが、対応した会員とのトラブルはJIAが責任をとることになるということによく揉んでおかないと。トラブルになって苦情対応委員会のほうへ上がってきた場合を覚悟してJIAの態勢を考えておかないと。

**安達** 中野でも住宅セミナーみたいなものをやりましたが、それは、建築家はこういうものだというのをわかってもらうため、セミナーで講師を売り込むためののではない。その講師の人が私に頼んでくれるふうになってしまったら、これは協会の権威喪失につながるわけです。逆にそういう欲求があるのだったらセミナーとか相談会でなく、はっきりお見合いの場として設定する。すべて自己責任によってください、トラブルを持ち込む場は別にあるけれども、協会は責任はとれないです、と言う。仕事を取ることは嫌らしいことではないわけですから、それはそれとして正規に位置づけるというのはあり得るのではないですか。

**司会** いろいろなご提言を含んだお話を伺えたように思います。ありがとうございました。

(2003年2月10日月曜日JIA館にて)

## 特集：JIAの周縁

JIAと市民の接点から：長野地域会

## 「あすなる建築家集団」 JIA



長野地域会 会長 松下 重雄

2月号の特集「JIAの周縁」の「JIAは危機的状況」ではじまる記事には大変驚かされ、いよいよJIAも終焉か、と勘違いしそうになりました。大変刺激されましたので、少し過激な発言や提言をお許し下さい。

## 会員の減少と高齢化に歯止めを

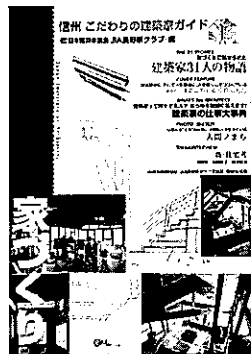
JIA設立と同時に40代で入会した私も、もうすぐ62歳、ということは8年後には70代です。シミュレーション通りにこのまま進めば大変な高齢化集団で、「JIA長野県老人クラブ」となってしまいます。さらに地域会別のデータを分析されると、一層問題点が浮き彫りにされるでしょうから次回に期待しましょう。ともかく常に若いメンバーを補充しなければならない状態が理解できました。

ところで当クラブは今年度、現会員の1割を超える10名の新会員を迎えることになりました。はじめての女性会員2名を含む全員が30～40代の若手メンバー獲得の成果となった原動力は何だったのか、クラブの活動を紹介しながらお伝えしたいと思います。

## 会費は高くてもメリットは得られる

会費は本当に高いでしょうか。誰だって経費や労力をかけずに成果（メリット）を挙げたいわけですが、入会してすぐメリットがあるような組織っていったい何なのでしょう。組織に期待しすぎて甘えていて、誰かがやってくれるといった消極的な建築家を社会は求めていますし、認めてもらえないはず。CPDはそれを社会に開示するためのツールなのですから……。

JIA長野県クラブは昨年、主体性を持った活動をさらに活発化するために会費と組織の改定を行いました（詳細はBulletin 2002年8月号参照）。社会に認知され、そのための研鑽を重ねるための活動を活発に行えば、当然経費は高まります。しかし、そのために身銭



「愛と情熱の家づくり」出版事業

を切っても歯をくいしばって活動する団体こそ社会から評価を得られるものと信じています。

「建築家の仕事が市民に理解されるためのPR」が若い人たちに望まれています。JIA長野県クラブでは、卒業設計コンクール、文化講演会、建築展の巡回などの他に住まいづくりの出版事業を行っています。「愛と情熱の家づくり」と「信州の建築家とつくる家」は1人10万円以上の出費でしたが、少しずつ私たちの存在を社会に理解してもらったり、会員同志の結束や若手メンバーの勧誘にも役立っているようです。地域会単位での出版事業を一斉に取り組んでみませんか。

## あすなる建築家集団（ハングリーな仲間たち）

JIAが社会から求められているのはエリート集団ではありません。家を建てたいのに建築家に辿りつけない人や、市民と共に考えて行動してくれる建築家たちです。JIA長野県クラブに「あすなる見学会」と「あすなる建築展」があります。「あすなる」は木曾五木の一種で「明日は桧になりたい、桧になろう……」ということから命名されたそうです。自分たちもそんな気持ちで学習したり、県内巡回展で自分たちの仕事を市民に見てもらい、身近な存在を知ってもらうための活動です。対外的にも、入会希望の若い建築家にとっても敷居が高過ぎてはいけません。従って、入会金は6000円で据え置き、安くするべきでしょう。

建築家としての力量、実績、あるいは高い理念に到達していない、場合によれば譬は悪いですが灰色の建築家だってJIAに入って育っていけば良いとは言い過ぎでしょうか。若い建築家に開かれた学び合う者同志の集まりに「JIAを変えましょう」。

資格制度の試行も間近かとのこと、いくら良いチームでもシュートしなければ勝てません。CPDに続く2本目のシュートをサポーターは待ちこがれています。そして、1人で立ち向かえない様々な問題を社会にアピールしていけるような闘うJIAの姿を求めています。

〈(有)みすゞ設計 主宰〉

JIAと市民の接点から：神奈川地域会

## 市民とともに文化の土壌を育てる



JIA神奈川 前代表 金子 修司

JIA神奈川は関東甲信越支部の中でも従来から常に先駆的な活動を実践してきた地域会であると自負している。しかしその活動を担っているメンバーは、約180人の会員のうち十数人でしかないのが実情である。代表を初めとする役員や各種委員会のメンバーの努力によって活動が成り立っている。

ご多分にもれず財政状況も極端に苦しくなり、事務所会員制度を設けて有志会員の援助を受け、賛助会員組織が充実し側面的な援助をいただいている。

近年の経済状況からか約200人近かった会員も減少し、会員の年齢もそれなりに高くなった。少数の新規入会者もあるが会員数の目減りは止まらない。活動の拠点としている事務局の維持費などの負担も限界に近づいている。これら神奈川地域会の現状は正にJIA全体の傾向を反映していると思われる。会員数の減少と財政的な厳しさは他の団体も同じらしい。それぞれの組織の存在意義が問いかけてられているものと理解すべきであろう。社会のニーズに対応する組織への脱皮が必要である。

「JIAを変えよう」のキャッチフレーズのもとに行動を開始した大字根体制の新しい方針に期待し、地域からの発信を目指して活動を進めている。

「市民・消費者に顔を向け」た建築家集団を目指しているが、本質的な部分で対象のとらえ方がよく見えていないことが悩みである。以前から活動目標に消費者、市民向けの活動を掲げ、建築家の仕事や、役割を理解してもらえるよう努力をしてきたつもりであるが、計画、実施に全力投球はしても、実施後の評価、問題把握、分析や今後の対応策を整理していないという反省もある。地域活動は一朝一夕に効果を上げることは出来ない。一步一步実績を積上げて行く必要がある。これからも地域の市民グループやまちづくりの組織と協同することにより活動のネットワークを広げて行きたいと考えている。

一般市民を対象とした活動の中でも、歴史的建築物の保存活用をテーマとしたものは親しみやすさとタイムリーな企画により好評を博している。

歴史的な建物を評価し大切に使い続けることのできる文化の土壌が育つことを期待し、市民と共に積極的に発言して行くことの必要性を実感している。

### 市民向け見学会シンポジウム

■解体直前のヘルムハウスを観る

平成12年4月29日(土)

主催：JIA神奈川

支部保存問題委員会

参加者：約190人（市民多数参加）

昭和初期のRC造外人向け賃貸住宅。解体直前に急遽見学会を企画。敷地内に残っていたレンガ造の建物遺構が横浜開港当時（明治16年）の外人居留地48番館であることが判明し、県の重要文化財に指定された。



### ■旧東京三菱銀行見学会シンポジウム

平成13年3月3日(土)

主催：JIA神奈川 支部保存問題委員会

共催：横浜シティガイド協会、横浜まちづくり倶楽部、浜の会

参加者：130人

横浜の中心街に残る昭和初期のRC2階建て銀行建築。市登録歴史的建築物であったが、跡地にマンション建設中。都市デザイン室の要請を受け、旧建物のイメージを継承。

### ■旧富士銀行見学会

平成14年8月31日(土)

主催：JIA神奈川

保存問題委員会

共催：横浜シティガイド協会、横浜市都市計画局、馬車道商店街協同組合

参加者：120名

JIA神奈川の事務局の隣に建つ昭和初期の銀行建築。高秀前横浜市長の英断で横浜市が買収し、保存活用中。横浜の歴史的建築物が行政の力によって保存された。



横浜国大吉田綱市教授による解説

〈株〉金子設計 主宰

## 特集：JIAの周縁

JIAと市民の接点から：JIA建築セミナー

# JIA会員の予備軍

注目にあたいする受講生の存在とパワー



建築セミナー実行委員会 副委員長 亀井 正浩

「JIAの周縁」というテーマに対して、私自身が現在担当している建築セミナー実行委員としての立場から、JIA会員以外の方々との繋がりや可能性について考えてみたいと思う。

### 1000名強の修了生を輩出

建築セミナーは1978年に開講して以来25年続く、延べ1000名強の修了生を輩出する支部の教育事業であり、毎年40名程度が参加して1年間にわたり約30コマのカリキュラムを受講している。主に設計実務に携わる若手や学生をその対象としていることから、大部分が20～30代のJIA会員以外で構成されており、会員が参加することは極めて稀である。

関東甲信越支部会員の年代構成では30代が1.2%、20代に至っては0.08%であるという現状と比較すると、全く相反する割合で構成されているが、建築セミナーではこれが熱気と受講生同士の緊密な関係に大きく寄与していることは疑う余地がない。

一方、1年間のカリキュラムを修了した後に、受講生からJIAに入会する比率はまた極端に低い。これはいかなる理由によるものなのだろうか。

確かに企画運営側である実行委員会が「用意した」カリキュラムに、ただ「受け身」で参加していた受講生にとっては、修了後に今度は会員となって内部から引き続き建築セミナーの企画運営に携わるといった流れには直結しないであろうし、またその面白さや醍醐味も充分には伝わらない。

ところが前者とは反対に、毎年核となる受講生からは翌年以降も運営の補助やワーキンググループの一員として企画側に参加し、より受講生に近い立場や年代での想いをもとに、地道な活動を続けていくメンバーも生まれ、建築セミナーのさらなる発展のために新しい力としてその一翼を担いつつある。

実行委員としても毎年の受講生に対して、自分たちが過ごした建築セミナーをより良いものとするために、JIA会員となって活動していくことの意義や面白さを伝

え続けることが重要であり、そうした方々との交流が後々JIAの会員としての力を高める動きにも発展できると認識している。

### 意欲があっても入会することができず

ただ、如何せん現状ではJIAの掲げる正会員資格に該当する受講生が圧倒的に少ないため、仮に意欲があっても企画運営側に残ったとしても入会することができず、結果として若い世代の会員数増強には繋がらないという状況となっている。

長い目で見るとJIA会員の予備軍として捉えることのできる建築セミナー受講生の存在とそのパワーは、是非とも今後の展開において注目すべきである。地道に、そして着実に活動しているこうした若手を、何とか会員に押し上げるシステムを検討することはできないであろうか。例えば、過去に建築セミナーなどの教育事業を受講した修了生が、将来的にJIA会員になろうとする際は、何らかの特典などが与えられる制度など。もちろん建築セミナーをそのきっかけとして、各委員会や部会、地域会が主催するイベントに受講生が参加できるよう、積極的なPRを行うなどの努力も継続して必要である。

最後に、単に会員の「数」を増強することのみが今後のJIAの生き残る手段であるかを大いに議論する必要もあると思う。職能団体として建築家のあるべき姿を追い求める以上、建築家自身の質の向上も伴う必要があることは言うまでもない。JIAに入会している建築家の数が増えることのみで、一般社会への発言力が増すとは思えないし、ましてや社会的な認知度が上がるとも到底思えない。そこには活発に、そして何よりも継続的に一般市民と接触しながら、社会的責任を持ちつつ「アクティブに活動するJIA会員」が重要である。建築家の社会に対する必要性をより多くの人達に感じてもらえるようなJIAの活動に、会員自身が参加できる機会が増えるようであれば、会員以外の方々にとってもJIAに入会する一つの動機付けになるのではないだろうか。

〈(株)亀井建築設計事務所 主宰〉

JIAと市民の接点から：首都圏相談室

## 2つの難問に答える



建築相談委員会 委員長 左 知子

相談委員会の相談窓口は、「対市民窓口」と支部組織図に記載されているように、直接市民と接触しているJIAのアンテナ部分でもあるわけです。地道な活動の継続の結果、JIAという組織の第三者的な、営利に動かされない立場が理解されてきているといってもよいと思います。住宅金融普及協会での相談窓口がJIA館での窓口のサポート的な存在になっている実態や、裁判所からの支援要請、弁護士からの評価、役所からの紹介など、すでにその存在が一人歩きしていると感じています。と、同時に建築の制度論や、窓口の在り方、JIA組織への疑問などが一般の方から投げかけられるようになりました。建築士会やNPOの相談と何が違うかという質問など、その在り方に興味をもたれているということも私達は認識しておかなければいけないと思います。

### 身が引けてしまう設計者

このような実感体験のなかで、JIAという職能団体が直面している2つの問題があると思います。この2つは実は裏では繋がって1つになっているとも思っています。

1つめは、職人の著しい技能低下の中で、設計者はどのように現場の監理責任を負っていくべきかという問題です。建物に不都合が指摘された時、今まで設計者は施工の問題だからと目をそむけていました。それは優秀な現場監督や、優秀な職人に支えられていた時代は許されていました。しかしいまや、現場に生き甲斐を感じるような職人はめっぽう減ってしまい、あるいは彼らも高齢化で身体が利かなくなって、管理の目を盗んでは楽な選択をするという実態が増えているのではないのでしょうか。また、ハウスメーカーの出現で、自らの技能を捨てて、「生活」に走った結果が現在の状態なのかもしれません。逆勾配の横引き配管、納まりのための大梁やスラブの欠き込み、これらの発見は請負者の大小を問いませんし、1つの現場から複数箇所発見されるのです。こういった発見があっても設計者が説明（釈明）に出てくることはありません。監理ミスを批難されるのを恐れるの

かまたは、他人事なのか。施工不良であることは間違いなくとも、設計者の責任、または監理責任というものは曖昧な所があるために、白黒をつけたくないという心理が働いて身が引けてしまうのでしょうか。この気持が覚えてしまうと発注者の心は「設計者は、誠意がない」という憎悪に転化してしまいます。

欠陥住宅を扱っている法律家は、設計者の立場を確立し、監理を強化することによって技術の不足を補い、良質な建築を保持できるという考えを打ち出していますが、私たちにそのような期待を受けとめる力があるのでしょうか。

### 10年後には欠陥住宅

2つめの難問は、建築というもの——私たちが出会っている建築は99%が住宅建築ですが——とはどのようなものかということ、どう説明するかということ。欠陥住宅と良質住宅が二極にあるとすればその間のグレーゾーンにはかなりの幅があり、9割の住宅がその間に入っているのではないかと思います。「補修があれば欠陥」という考え方もあります。きちんと設計され、監理されれば存在するものではないはずだというものです。しかし、補修のない住宅は、それが1週間に1度以上の工事監理がなされたとしても存在しにくいことだと推測します。また、別の観点で基準法などの法規が早いピッチで変わって行くために、10年前のRC住宅は、現在では欠陥住宅に該当してしまいます。その時代、時代の法規に照らして判断するというのは、建物側からみると勝手な解釈と言われそうではありませんか。

私たちは「欠陥住宅に出会わないためには自身の納得の行く建築家を見つけることです」と今まで説いてきました。それは、単に夢物語でしかなかったのでしょうか。

そして建築家協会が、職能団体として「建築家の社会的機能を説いていく団体」だとすれば、社会に対してこの答えを提示していかなければならないはずで、私たちは、この難問に答えていく義務があると思っています。

〈(有)左 知子建築設計室 主宰〉

## 特集：JIAの周縁

JIAと市民の接点から：メンテナンス部会

# 会員減少を憂えるより 活発な活動を



メンテナンス部会 部会長 柴田 幸夫

私がJIAに入会したのは、1987年新日本建築家協会発足時です。当時勤務していた設計事務所の都合から設計監理協会の流れで、特に深い意味もなく入会しております。その後、独立してからも継続しておりましたが、あまりの会費の高さに退会を考えておりました。JIA内では何も活動しておりませんでしたから、会費に見合うメリットを全く感じておりませんでした。

会費も滞納しており、このまま退会しようと思っていた十数年前、当時自宅マンションの修繕工事に理事として関わることとなりました。プロとして少し勉強しようと、当時晴海で行われていたリフォーム関係の展示会に行ったところ、なんとJIAのブースがあったのです。私もそれまでビルの改修設計は手がけておりましたが、まさか改修・修繕などという地味な仕事（誤解ですが）に会員が積極的に関わっていることに親しみを感じたものです。これが現在でもメンテナンス部会で活動しているきっかけで、メンテナンス部会がたまたまJIAの中にあっただけという感覚です。メンテナンス部会がなければすでに退会していたと思いますし、現在のメンテナンス部会活動が他の組織に移動すればJIAを辞めるかもしれません。現実には、部会活動から入会した会員も多くいますが、それが自然な入会のかたちの一つかもしれません。

JIAの良さの一つに、部会活動があるのかと思います。委員会と比べて比較的自由的な活動ができることにあります。建築士会や事務所協会などと比較して自由で活発な活動が可能ではないでしょうか。会員にとってメリットがあるか否か、会費が高いか安いかは、会員それぞれがJIAの中に何を見出すかでしょう。率直な言い方をすると、いかにしてJIAを利用して自分にとってのメリットを創り出すかにあります。そのような活動を積極的に行っていく中で、当然対外的にも向くでしょうし、JIAの枠からもはみ出して行くことでしょう。それらの総合的な結果として、JIAが拡大し、社会的に認知度が増し、会員も増加するのではないのでしょうか。

以前他の部会で、数人の有志と共に新しく対外的活動

を始めたことがあります。それが徐々に軌道に乗り始めた頃、部会内から種々の軋轢を感じたものです。当時、助力は不要だから活動を阻害しないでいただきたいと切に願ったものです。私はその活動を止めてしまいました。当時の仲間の尽力で部会内の理解も得られ、順調に活動しているようです。組織である以上解決しなければならない問題はあるものの、積極的に動けば道は開けるもので、JIAにはそれだけの柔軟性と包容力があると思います。

さて、前号（173号）ではJIAの周縁（終焉？）との特集が組まれ、JIAが危機的状況であるとしております。その理由として会員数が激減している、若い会員が減っているとしております。現在約5000人というのが多いか少ないか何とも言えませんが、旧家協会のようにサロンとして考えれば多いでしょう。職能確立を目指す団体としての社会的発言力を考えると、建築士会などと比較して非常に少ないと思います。しかし、JIA全体の活動としては会員数の減少ほどには減退しているのでしょうか。特に対外的あるいは一般市民向けの活動はどうなのでしょう。比較統計は難しいと思いますが、むしろ活発になっているのであれば、会員減はそれほど悲観することでもないように思います。

組織の活性化には若い力が必要ですから、若い会員が減少していることは問題かもしれません。独立して日の浅い建築家にJIAから仕事を紹介出来るシステムを作るのも一策かと思います。すでにリビングデザインセンターOZONEでは行っておりますが、一般市民に対しても効果的ではないでしょうか。建築相談などのように一時的な対応だけではなく、最後まで面倒を見る建築家を具体的に紹介し、JIAがフォローして行くことも考える時期かと思います。組織として多くの困難な問題がありますが、job huntingなどとナーバスになるくらいなら制度として確立する方が良いでしょう。一般市民が建築家を求めているのであれば、それに応えられるのはJIAしかないのだから。

〈(有)柴田建築設計事務所 主宰〉

JIAと市民の接点から：住宅部会／くらしとすまいの相談室

## 対市民活動から得たもの



住宅部会／くらしとすまいの相談室WG 吉田 晃

住宅部会のくらしとすまいの相談室WGでは、毎月リビングデザインセンターOZONEでセミナーと相談会を行っています。1995年8月以来、今年で8年目を迎えました。

### 阪神淡路大震災が残したもの

1995年1月17日の阪神淡路大震災は、住宅を設計している者には衝撃でした。ボランティアとして現地に赴きそこで見たものは、私たち建築家の技術的あるいは社会的なノウハウ（職能）がもう少し活かされていれば、ここまでの被害にならなかったかも知れないという強い思いでした。もっと社会的に貢献することが必要だ、ということを痛切に感じました。

建築家の仕事というのは市民から見ると分かりにくいと思います。それならばこちらから積極的に伝えて行こうと考えました。市民の相談に乗りながら、平易な言葉で分かりやすく「建築家の仕事」を理解してもらう。そういう活動を、ということでスタートしました。

### 独自の企画・運営で行うことの意義

幸い、オゾンは私たちの活動に好意的で会場を提供していただいておりますが、場所の提供以外は特にスポンサーはなく、私たちの主体的な活動として、講演のみならず企画から具体的な内容の検討、集客のための広報、申込受付から当日の設営まですべてWGメンバーの協力でを行っています。

以前、ハウスクエア横浜で3ヶ月6回ほど、セミナーを依頼されてやったことがあります。そこには住宅展示場やメーカーのショールームがあるのですが、講演の内容も事前にチェックされました。さすがに大変な集客があるのですが、私たちのホッペが語れないところもあって、けっきょく長続きしませんでした。一方、オゾンでは最初の3年ほどはほとんど人が集まらず、受講者ゼロで、WGのメンバーだけということも度々でした。しかし、横浜での経験から、企画とプレゼンテーションに問題があると認識し、WGで時間をかけてテーマを練り、セミナーの準備に力を入れるようにしてからは、ようや

く受講者が集まるようになりました。

お膳立てされた企画に乗るのは楽なのですが、そこには企画側の思惑という落とし穴があります。本当にJIAが社会的な発言をするためには、自分たちの独自の企画、テーマでなくては行けない。そう思います。

### 建築家に求められる社会的な評価

住宅部会ではセミナーと相談会の実績は発足以来あります。そこでは「相談会は仕事を取る場所ではない」ということが繰り返し論議されてきました。私たちのWGを作ったときもそのことを大分論議してルールも作りました。しかしこの2、3年で状況は大きく変わってきたと思います。

当WGの活動での仕事の依頼は皆無ですが、「対市民活動を積極的にやっている人だからお願いしたい」という声が出てきています。建築家を選ぶ基準の一つとして社会的な活動をしているというのが入っているということです。2月号の座談会で森岡さんが建築家は医者と患者の両面を持っていると言っていますが、その医者の部分が求められているのです。裏を返せばJIAの会員が苦勞してきた対市民活動が少しは社会の歯車に噛み合ってきたかなということでもあります。

### 今こそJIAの体質を変えねば……

今、建築家ブームだそうです。2月号の座談会で吉川さんがこのブームをJIAが利用しない手はないと言っています。と同時にブームの揺り返しが必ず来るからその時までには何をすべきかをJIAが考えておかないとともに言っています。これを読んで正直暗澹たる思いです。まずこういう認識が今のJIAにあるだろうか。

ブームは多分に仕掛け人がいるのですが、我々に好意を持っている人でも応々にして理解が一面的だったりするのです。そういう風に考えると、JIA自体がよほど体質を変えないと置いてきぼりにされる、いやもうされてる。

〈吉田晃建築研究所〉

## 海外レポート

## 何もないと豊かになる

ミャンマー仏教建築を見る



中山 庚一郎

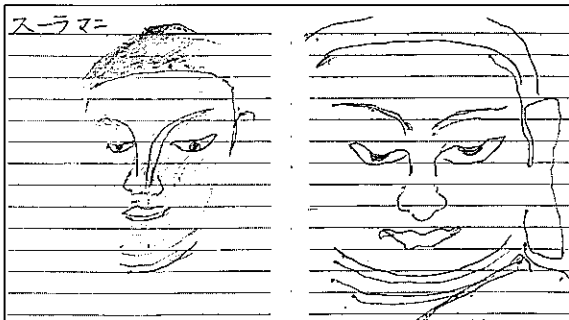
田村泰顕氏によるアジア近場建築探訪の旅は、昨年11月13日から18日、名古屋・京都の会員も合わせて17名の参加をえて、下記のスケジュールで催された。

- |        |          |       |
|--------|----------|-------|
| 11月13日 | 成田→ヤンゴン  | ヤンゴン泊 |
| 14日    | 早朝パガンへ   | パガン泊  |
| 15日    | パガン地区視察  | パガン泊  |
| 16日    | 早朝パゴーへ   | ヤンゴン泊 |
| 17日    | ヤンゴン市内視察 |       |
| 18日    | 朝帰国      |       |

11月15日には田中瑛也氏の難解なアジアの仏教建築、そして上座仏教の思想、さらに感性と知性、無分別知、阿頼耶識に至る講義があり、久しぶりに緊張した時間をもった。

buddham saranam gacchami

ミャンマーは祈りの国である。



## パガン王国址

ミャンマーの荘厳な朝があける。

東の空があかね色に染まり、黒々としたパゴダのシルエットが少しずつ赤みをさしてくる。朝焼けのパゴダをスケッチしていると、まだ闇の残る農道を自転車に乗る少年が近寄ってくる。

この南国の平原を埋める当時5000余といわれたおびただしいパゴダ群、その建設の情熱は何であったのか。1044年パガン朝の建国、仏教に熱心なアノーヤター王は、シュエージーゴンパゴダを建て、戦いそして祈り、国は栄え豊かになり、人々も王にならってパゴダを建て祈った。



パガンのパゴダ群

僧は尊敬され喜捨をうけ、寺院は次第に巨大になり、その運営維持に従事する者は増えていった。やがて祈るものが生産をし商いをする者とのバランスをこえたとき、国家は弱体となり、1284年パガンは滅亡する。

往時の人々の住んだ家は草葺きで、今は土にかえり跡形もない。イラワジ川に面して堀をめぐらし、わずかに城門を残す小ぶりな王宮址があり、その城内に王の寺院とパゴダが残る。そのころの生活は寺とパゴダと共にあったのか、だれも知る人はいない。南国の植物のしげるなかの、おびただしい赤い焼成レンガのパゴダのみが、かつての栄華をしのばせる。

11月15日イラワジ川の岸辺のレストランで昼食をする。川の岩場で洗濯をするもの、水浴をする女、小舟を並べて網をしかける男たち、岩の岬に黄金のパゴダが川からそそり立つようにそびえる。パガン博物館の王国の資料によると、そこはパガン王国の貿易港であったらしい。思えば11～15世紀は海のシルクロードの時代、



イラワジ川の眺め



## 海外レポート

この川辺にはアラビアや中国やらの珍品産物があふれ、交易で賑わったであろうが、今や知る人もいない。

### サステナブルの文明のありかた

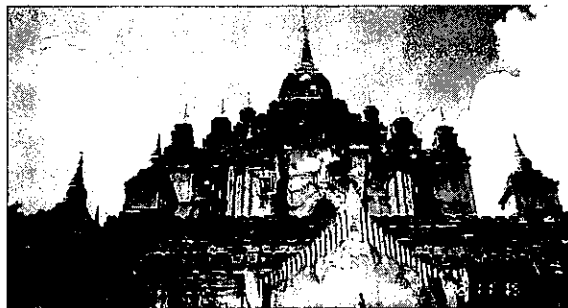
#### ■古いバス

日本で使い古したバス、トラック、タクシーがミャンマー全土で元気に余生を送っている。

我々の乗った観光バスにも「お降りの方はこのボタンを押して下さい」の赤いボタンがついている。都バスも東野バスも〇〇建設のトラックも、屋根に黄色いチョウチン灯りのついたタクシーもTADANOのクレーン車も元気に働いている。部品の調達がしやすく、まだ40～50年は使えるという。

#### ■はだし

寺院に詣でるには、裸足でなければならない。バスの中で靴下をぬぎ、そこから裸足で土の道を歩いて寺院にお参りする。子供のとき以来ひさしぶりの足の裏の感触が、最初は少し腹立たしかったのに、半日もすると気持ちよく若返って健康になったような気がしてくる。コンクリートの感触、御影石の感触、大理石、タイルみなそれぞれ違う。中でも土の感じはいい、水はけのいい土の感触はあたたかく優しくとても気持ちいい、これは何かに使える、とピピッとくる。



バガンで最も高いタビニユ寺院

#### ■清貧にして礼儀正しく

それにしてもこれだけのパゴダや寺院を建立した人々は、何処にどのような生活をしていたのか。その人口を

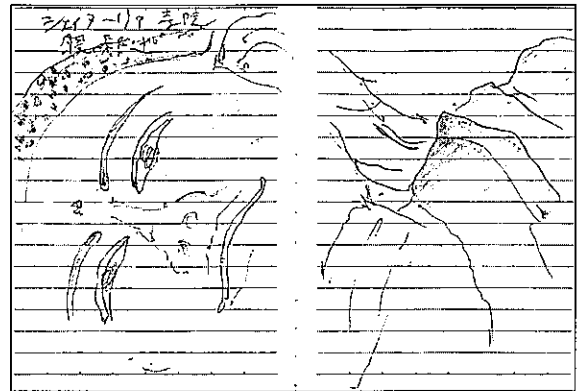
養う農地はどこにあったのか、市場はどこにあったのか、どこからそのような富が生じたのか。全く跡形がない。パゴダの管理をする小さな子供のいる家族をみた。四畳半くらいのヤシの葉を葺いて、丸木を組み、編み竹を張った高床の小屋



子供たち

に生活していた。へっつい外にあり、いくらかの食器と夜具がわりの布切れがあるだけのシンプルな住まいである。しかし小屋のまわりは掃き清められ、おはようと言うと子供たちは礼儀正しく、控えめにほほえんだ。

カンボジアのアンコール王朝も同じであったが、国家の滅びた後の醜い残骸を曝すことなく、跡形もなくその国家を自然にかえす、アジアの王国の文明のあり方は見事である。



#### 豊かさの呪縛

現代文明の豊かさとは一体何であろう。

貧困は悪である、と相変わらず飢えと不安を叫ぶ政治家とマスコミ。いくら注いでも注いでも満たされぬ世界に、焦りとむなしさを感じながら、現代文明は行き詰まって行く。

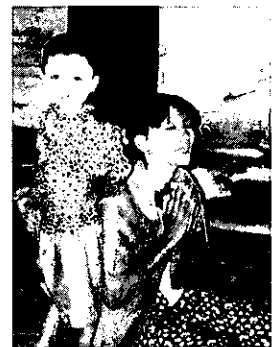
ところがこの国にあるものは、何も無い豊かさ。「喜捨の心」、自分の持つものをない者にあたえる、ここには持つ者ともたない者の間に静かなつながりがある。寺院の片隅で物を乞う盲目の老婆の目をみよ、この国の人は喜捨のとき、身をかがめ地にひざをついて与える。そのとき乞う者と与える者に喜びが満ちる。

炎天下、乳のみ児をかかえる物乞いに1000kyatを与えた。喜びの色が相手の目の中に輝く。しばらくして御堂の傍らで豊かな乳房をあらわにして、今日の食は得たりと安心して乳を与える姿をみた。そこには日本では見られなくなった母と子の強いつながりが、何も無いからこそ鮮やかにあらわれていた。

豊かになった我々の失った心の世界が、そこに悠然として存続していた。

(株)石井建築事務所 主宰

写真：田村泰頭  
スケッチ：中山庚一郎



祈る母子

ほぞんもんだい

# 市民と共に保存活動

旧東方文化学院東京研究所



保存問題委員会 委員 桐原 武志



2月14日の読売新聞夕刊に「昭和初期の名建築『命拾い』」の見出しで旧東方文化学院東京研究所が、保存を条件に拓殖大学に購入された

記事が載りました。「……国有財産として財務省が管理していたが、一昨年に払い下げ処分の対象になり、マンション業者などに買い取られれば、取り壊しは避けられず、地元の住民や専門家が保存を訴えるグループを結成。見学会を開いたり、国などに要望書を提出したりしてきた……」と書かれています。これが、私たちJIA会員が地元の住民の方々に協力し、2年半の保存活動を続けてきた成果です。どのような活動であったか振り返ってみましょう。

文京区の「まちづくり委員会」の報告で建物の売却を知り、解体され更地となって売却されるのでは

と危機感をもった区議の木村民子さんが、旧知の多児さん（赤レンガの東京駅を愛する市民の会）に建物を保存したいとの相談をしたのが、保存活動のスタートでした。2000年2月のことです。多児さんが芸大の奏楽堂や東京駅などの保存活動をしている前野芸大教授に相談し、保存を考える集まりの呼びかけをすることになりました。呼びかけでJIAから私と兼松さん、秋山さん、それに多児さんの友人が加わり、7名が文京区民センター内の小さな会議室に集まったのが6月、ささやかな集まりでした。

7月、8月、9月と月1回の会合を持ち、建物の歴史や謄本や公図を取り寄せ現状の調査……。この建物が義和団事件の賠償金で作られたことを知るなど、当時の歴史の勉強もしました。私もこの建物は建築学会の「総覧：日本の建築」に載っているのを読んだ程度で、実際

に見たことはありませんでしたので、市民の方々と一緒に一からの勉強でした。一方、発起人会の立上げ、見学会やシンポジウムなど企画などの準備も手分けして進めました。しかし、このような準備をしている内に、競売にかけられマンション業者に渡ってしまっただけではお終いです。発起人会の発足は年を越しそうな状況になりそうでしたので、まず有志で外務省に保存要望書を出すことにしました。まだ河野外務大臣の頃でした。

発起人を集め2001年2月に「旧東方文化学院の建物を生かす会」が正式に発足し、3月にはシンポジウムの開催までこぎつけました。木村さんの呼びかけから1年が過ぎていました。これからが活動の第二段階に入ります。保存の要望書を出すだけでは、担当部局で止まっ

てしまうかもしれません。そこで、建物保存に賛同してくれる国会議員にも働きかけをすることとなり、兼松さんの精力的な活動で、河村たかし議員を中心とした超党派国会議員との連携が実現。我々の保存要望書と一緒に、議員からも要望書が提出

することができました。また建物の引き受け先として、東京大学への打診も試みました。

最終的には、新聞記事にあるように、保存を条件として拓殖大学への売却が昨年2月に決まりました。現在、会としては2年半の活動をデジタル化した活動記録の作成中です。この原稿が Bulletin に掲載されるころにはCD-ROMが出来上がっていますので、活動内容を詳しく知りたい方はCD-ROMをご覧ください。

(株)バスプラスワン



建物見学会



市民と共に——「活動記録」編集会議

# エネルギーを秘めた 娯楽という非日常の世界

「宝塚と私——甲にしきから小川甲子まで」

小川甲子（東京宝塚劇場支配人）

2002年9月19日(木) 時間：18：30～20：30

場所：建築家会館1Fホール

知っているようで知らない世界がある。今回、知らない世界のドアを開けてみることにした。そして小川甲子さんのお話に接して、ほんの少し夢の世界を垣間見ることができた。ここでお話のいくつかをメモってみよう。

そもそも宝塚は、阪急の小林一三が計画した電鉄許可の関係から、宝塚に名物を作ろうとした顛末から生まれたという。評判が悪かったプールの水槽を客席に、少女20名によるパラダイス劇場として余興を行ったのが始まり。また、仲がよかった松永安左衛門翁から「女子供の財布を狙うのか」と問われたときに、「生活の中では、娯楽が大事」と主張されたこと。そして10年後には4000人の劇場を作り、築地小劇場があった時代に東京にも宝塚劇場を作り、それが最近19階建てに建て替えられ、今や88年の歴史を数えるという。

また舞台には、音楽学校（2年）を卒業しないと出られないこと。入学は20人に1人という難関。ジャズダンス、日本舞踊、ピアノなどすべてをクリアしなければならないという高いハードル、必ずスターになれるわけではないが統べてが成績順であること。先輩後輩の序列が厳しいことなど、なまじの体育会系も適わない鍛え方をされていることなどが語られた。

そして宝塚の舞台に立ちたいという当初からの情熱と血こそ繋がらないが兄弟のような結束力、加えて5組による競争が内部の活力を生み、よい舞台をつくるモチになっている。数字を記すと、演ずる側は生徒400名、制作130名、その他をいれて900名の大所帯。一方観客側は、友の会7万人（平均42歳、男7%）、そして観客数は関西100万人、東京100万人、ツアーなど50～60万人で、総計年間250～260万人にのぼるといふ。にわかにはその量を想像できないが、東京の人口の約

1/5の人が見ていることになり、リピートを入れても「凄い」の一言になる。何しろチケットが4ヶ月前でないと手に入らないという盛況。さらに現在の東西の固定客に満足することなく、学校などの団体観劇は将来を見込んで割り引きとし、これからは高齢化社会を捉えてテレビによってお茶の間に進出し、さらに世界へ向けての展開をはじめているという。

小川さんが開けてくれた宝塚は、私が抱いていた「女の園」という甘い夢の世界を飛び越えて、どうしたら成功するかというビジネスの話を知っているようであった。そして最近の言い方でいえば、娯楽という非日常の世界に、物凄いエネルギーがあることを遅ればせながら知らされた。ディズニーランドは別として、各地のテーマパークやレジャー施設が冬の時代を迎えている昨今、この繁栄はそれこそ夢また夢のような出来事に違いない。そう言えば、商業やショッピング施設も、最近では非日常の世界を売っている。そしてわれわれ自身が、様々な非日常の世界を渡り歩いて日常生活を過ごしている。かつては特別な世界と見られていた宝塚が、今やほどよい非日常として映るとしたら、それはむしろ世間のほうが非日常の楽しみ方に慣れてきた結果かもしれない。88年早かった宝塚に、学ぶことは多い。

小川さんのお話には、面白い自分史もあったが、誌面の関係から残念ながら割愛させていただいた。また後半、片山幸則さんの対談によって、会場が盛り上がったことを付記しておきたい。

〈リポーター：片山和俊〉



左：小川甲子氏、右：片山幸則氏

## 委員会部会活動報告

都市デザイン部会

# なぜ日本の街はちぐはぐなのか

青木仁氏を囲み円卓会議



都市デザイン部会 会員 鈴木 稔

昨年10月26日(土)TEPCO銀座館を会場にアーキテクツガーデン2002建築祭・都市デザイン部会企画イベントとして、話題本『なぜ日本の街はちぐはぐなのか』の著者である青木仁氏(都市基盤整備公団)を囲み、円卓会議をした議論概要を報告する。

当日の雨模様とは打って変わりUD部会員の他、テーマへの高い関心を表して市民活動家、土木設計家、建築および都市計画専攻学生らの参加者で会場一杯の60名程の大円卓会議となり、最高の盛り上がりとなるイベントになった。企画から当日コーディネーターを部会員小林正美氏(明治大学)にお願いし、会場壁面には部会員から寄せられた日常街の中に見られる「ちぐはぐ街並み事例」と「美しい街並み事例」の対比映像をBGM的に映し出しながら青木氏の基調講演でスタートした。

### 青木氏の基調講演

①著作の動機は国際都市間競争に、果たして東京は生き残れるのか、一人一人のアクションが必要と感じた(提唱の勝手連的街づくり: Bulletin 2003/2月号に寄稿)



青木仁氏

②従来の「施設改善」ではなく、都市の「環境改善」だ  
③お金は有限、知恵は無限度で既存価値観やルールを覆すことで出来ることが大いにある  
④都市再生のアクションプログラムとして「都市ビジョンの獲得」、「即地解の実現(地方独自で国の法適用外)」、「街づくりプロデューサーの育成」、「非合理的な建築規制の撤廃・高度成長型規制の終焉」  
⑤戦略ポイントとして「4m道路の接道義務撤廃、容積率制度の矛盾、逆効果を生む建ぺい率、チグハグな斜線規制、立地を逆誘導する用途規制、特殊制度の多様化と柔軟化」など知恵の出し所を力強く語られた。

コーディネーター小林氏より「法規」に関して性善説、性悪説の中で、専門家として経験している即地解の実例

報告や意見を部会員に呼びかけて討議に入った。

### 来場者の発言

- ①密集市街地の大規模再開発「六本木6丁目再開発」の業務経験から、ディベロッパー計画後16年掛りの歴史と地権者400人の内250人が再び住まう街となる
  - ・日影、空地、絶対高さ、壁面後退の規制に行政と事業者の調整で満足できる結果が得られた
- ②成城での再開発経験より「個人の私有制度」が強すぎ、ゴミ置き場ひとつで大きな問題になる現状だ
- ③丸の内再開発経験より大きい枠組みで行政と組めればやり易いが、誰が旗振り役でリードするかが鍵だ
  - ・アメリカのローカル権限は大きい。チーフアーキテクトの存在と我が街を愛する&守る文化の差があるから
- ④現在は事務所規模の大小による仕事への影響はなくなっていると実感する
  - ・集合住宅を積極的に手掛けているが、楽しいと感じながら街づくりが出来ないからだ
  - ・青木氏の個人の目も捨てたものではないに共鳴する
  - ・戦後57年になって建築家が都市に貢献できずにいる実態だが、10年頑張ると状況変化が現れる
  - ・目白の森では環境維持(緑化保存)で街の価値が上がる事に同意者が増え、2000人署名運動に発展して政治を動かす力となり、自治体による「買取・保存へ」実現し勇気が生まれ次への拡がりに期待する
  - ・歩行者中心のコミュニティ通りを提唱しているが建築家の能力と役割がコミュニティアーキテクトとして大きな力となる
- ⑤まず著者: 青木仁氏に会い直接話を伺いたかった
  - ・歩いて暮らせるスケールの生活、街が望ましいが、車



正面に映し出した「ちぐはぐ・美しい」対比事例映像とコーディネーター小林正美部会員(明治大学)で会議が進む

## 委員会部会活動報告

社会によるバイパス沿道型大型SCの流れから突然  
行政庁舎までが移転してしまうチグハグが多い

- ・今日のBGM映像事例を見ても、貧しいチグハグ事例  
風景が素材等の選択自由な国内の街で、一方時代を超  
えた共通素材を使いこなしている外国の街は美しい

### ⑥緑道暗渠化の時に合意形成づくりに苦労した

- ・業務時の「抜け道」=即地解の一つ、ただし投資家の  
手先と見られる
- ・市街地でのコミュニティの喪失・特殊建築物の制度疲  
労を感じる（特にタウンハウスなどの例）
- ・今後「勝手連」的にJIA団体として発信するのが重要

### ⑦（一般参加された土木設計家から）道路公団はお金の 使い方が下手だ。

- ・設計の工夫次第で巨額なお金が浮き節約できる
- ・車社会への風当たり強いが、高齢化になると必要と感  
じるが。

### ⑧都立大で一般学生への講義を通じて、学生が街に興味 がなく、チグハグな現状を違和感なく受け止めて衣・ 食に比べ街(住環境)へのこだわりがない

- ・今回の青木氏著書は将来PTAレベルで話題となるの  
が理想だ
- ・美しさや美しくなる事が経済的価値を高める意識の普  
及や文化の浸透が重要だ

### 行政に携る青木氏の感想・コメント

- ・巨大プロジェクト、シナリオから、個人レベルで勝手  
連の時代が来ると予感する
- ・協調的フライングが可能となる行政との枠組みづくり
- ・法規はその時々々の政治状況によって波がある（方向が  
振れる）が、根底に強化した規制が存在するので制度  
疲労を生じている

- ・補償型の特例制度により連続的な街並み形成へ導く  
来場者の質問→青木氏の回答

### Q1 商業施設と街づくりの関係→使う立場に立って関る 方針を思考基準としている

### Q2 なぜ日本の道路はまっすぐなのか→道路は必ず必 要。ただし現にある姿を前提にする発想を取れば良い

（曲がっているまたは狭小幅員でも）

- ・区画造成分譲方式は終焉して、建てる人が来てからど  
うするかを考える時代である

### Q3 公開空地はアリバイ作りに感じるが→連続性が重 要。周辺への波及促進のためにも補償型特例の制度的 仕掛けを考えるべきである

### Q4 都立大跡地に巨大マンション20F建てが閑静な住 宅地に出現するが評価は→都の財政難対策で高値入札 売却したが、以前の大学敷地の用途規制のまま（形 態・用途・高さの規制がかかっていないのが問題）

- ・東京のビジョンについて街を直す・低層市街地（一人  
一人のアクション積み重ね）・歩行者への配慮

### Q5 著書発表後の役所の反応→小さな声で賛成といわれ るが大きな声では言えないような反応

### Q6 歩道カフェ、谷中で有名な桜の木の下での屋台が警察 の強い指導で閉鎖になったが→行政の道路空間概念= 非常時に備え、常に空いた状態でなければならない 今後は知恵で使いこなす術への転換時期、提案して解 決していく

### 総括

都市デザインの専門立場から部会員・倉田直道氏（工  
学院大学）の総括的な意見として

- ・日本の都市ビジョンが欠けている
- ・公共空間がPoor=日本の街が美しくならない一因だ
- ・公開空地が有効に使われていない（米国では利用実態  
フォローの制度がある）
- ・生活レベルの視点が不足している

コーディネーター小林氏から「皆で、一人一人の各場  
面で叫んでいくことが大事」で円卓会議は終了した。

最後に、JIA関東甲信越支部/都市デザイン部会（久間  
常生部会長）方針は「人・生活・都市」の視点で建築と  
の関わりを自ら参加・研鑽・実践アピールする場として  
多彩な正会員・賛助会員メンバーでアクティブに活動し  
ていますので今後も注目していただき自由にご参加願  
います。

（賛助会員（株）住軽日軽エンジニアリング）



会場一杯となった円卓会議全景



最高の盛り上がりで熱いイベントを終えて  
青木講師を囲んで笑みを浮かべながらのリフレッシュ会議でイベント閉幕

CPDプログラム（1単位）として、Bulletinの2002年9月号・10月号・12月号・2003年2月号の誌上セミナー「ファイナンシャルビジネスのすすめ（田中修一氏）」につきまして、再度申請書を掲載致します。  
申請の期限は3月31日までです。是非申請をお願い致します。

JIA 関東甲信越支部広報委員会 宛

# JIA 継続職能研修（CPD）申請書

誌上セミナー「ファイナンシャルビジネスのすすめ」			CPDプログラム：1単位	
申請年月日	年	月	日	氏名（必記入）
会員番号（必記入）			メールアドレス	

<p>第1回 〈お金のことをもっと知ろう その1〉 9月号</p> <p>感想：</p>
<p>第2回 〈お金のことをもっと知ろう その2〉 10月号</p> <p>感想：</p>
<p>第3回 〈お金のことをもっと知ろう その3〉 12月号</p> <p>感想：</p>
<p>第4回 〈お金のことをもっと知ろう その4〉 2月号</p> <p>感想：</p>

提出先・問合せ先：JIA 関東甲信越支部広報委員会（担当：原田）  
TEL：03-3408-8291 FAX：03-3408-8294  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館4階

# 投稿を歓迎します

2003年度は隔月刊（偶数月号/奇数月発行）に増刊号（2刊発行予定）と致します

Bulletinは2002度は、5月号、6月号、8月号、9月号、10月号、12月号、2月号、4月号と年間8刊発行致しました。

2003年度も8刊を予定していますが、2003年度予算によって変わる場合があります。

## Bulletinは投稿を歓迎致します

Bulletinは会員の皆さんに開かれた会報誌です。会員からの投稿記事はすべて掲載する方針で編集しております。募集するのは「建築家の仕事」「海外レポート」「住宅の周辺」ですが、それ以外の自由なテーマも歓迎致します。下記の原稿作成要領をお読みいただき、原稿をお寄せ下さい。

## 記事についての、ご意見、ご感想をお寄せ下さい

会員の声を反映させた誌面づくりのために、ご意見、ご感想をお聞かせ下さい。後述の事務局担当までE-mailまたはFaxでお送り下さい。

## 支部ホームページのリニューアル作業中です

昨年11月に「支部ホームページ一般向けページ検討WG」を立ち上げ、建築家やJIAについて一般市民向けに情報発信するためのページを制作中です。2003年5月オープン予定です。興味のある方はぜひワーキングにご参加ください。

## 広報活動にぜひ参加して下さい

広報委員会では、委員会、部会、地域会、そして会員一人ひとりを横に繋いでいくコミュニケーションと、社会に向けた情報発信のパイプとしての役割を考えていますが、広報には、会員の皆さんの自主的な情報提供が必要です。また、広報活動に興味がある方は、ぜひ委員会やワーキングにご参加下さい。

## 原稿について

■文章：極力テキストファイルまたはWordファイルのデータでお願い致します。文字数は1ページでは1700字、2ページでは3500字程度になります。写真、図版がある場合は、1枚につき250字程度に換算して文字数を調整して下さい。

■写真・図版：できるだけ写真・図版をご用意下さい。写真のプリント、図版の紙原稿、もしくはJPEGまたはGIFのファイルでお願い致します（CADファイルは不可）。なお写真・図版の著作権につきましては、あらかじめ版元の方の了承をいただけますようお願い致します。

写真プリント、図版の紙原稿は使用後に返却致します。

■顔写真：お手数ですが、顔写真を是非ご送付下さいませようお願い致します（スナップ写真でもかまいません、使用後は返却致します）。

## 締切りと送付先

### ■原稿締切り

発行月の前月10日です。

■送付先：原稿は、下記まで郵送、またはメールにてお送り下さい。データの場合はフロッピーディスクまたはCDまたはMO（Windows、Macintoshとも可）、メール本文または添付ファイルにてお願い致します。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18

JIA館4階

社団法人 日本建築家協会・関東甲信越支部

広報委員会 担当：原田（支部事務局）

Tel：03-3408-8291 Fax：03-3408-8294

E-mail：jharada@jia.or.jp

## お願い

■読みやすい誌面にするため、編集会議にて、タイトルを付け直す、段落を分け小見出しを入れるなどの作業を行っております。原稿を熟読し慎重に行っておりますが、編集後に執筆者のチェックをいただき発刊しておりますので、ご了承下さい。

■戴いた原稿を、関東甲信越支部のホームページに掲載することがありますので、ご了承下さい。

選挙公報

関東甲信越支部役員選挙について

社団法人日本建築家協会  
 関東甲信越支部  
 選挙管理委員会  
 委員長 大竹 比呂志

第3回告示：2003年3月15日

2003年度役員選挙に関し、1月15日に第2回告示(補欠選挙)を行いました。2月7日の締切りまでに立候補の届出がありませんでした。2月12日開催の選挙管理委員会において、役員選出規定及び選挙細則を基に検討致しました結果、役員選出規定第3条4項及び選挙細則5のa項と同細則9により補欠選挙を再度行うこととなりますが、告示につきましては、後日改めまして公報致します。

なお、第2回告示でお知らせ致しました当選者につきまして公報致します。

また、監査立候補者については、資格審査の上、適格であることを確認致しましたので、「立候補者名簿」に掲載し、役員選出規定第2条5項により支部総会において選任することとなります。

幹事当選者名簿

神奈川



小澤 勝美  
おざわ かつみ

1954年7月9日生

推薦者

山口洋一郎 池永 辰雄  
 金子 修司 白川 正孝

略歴

1978年3月 武蔵工業大学工学部建築学科卒業  
 1980年3月 (株)ユー・アール・ユー総合研究所入所  
 1989年4月 取締役  
 1995年12月 代表取締役  
 現在JIA神奈川副代表、神奈川県建築士会横浜支部情報委員長、神奈川県建築設計協会理事、日本建築学会会員他  
**所信**／支部総務委員(2期)を経て、支部常任幹事を1期勤めさせて頂きました。今、JIAでは建築家資格制度、会員増強、法人化の問題、地域活動の活性化等問題は山積しておりますが支部発展や地域会の活発化等のため微力ながら尽力したいと思います。「若者の感性を良くするのも悪くするのも建築である」という言葉を胸に。  
**推薦理由**／現在、支部幹事として、1期をつとめられています。その間、支部運営、神奈川県地域会への情報伝達など、誠意を持ってされておられます。一番大事な今の時期にひきつづき、任にあたっていただき、継続性と共に、更なる発展に尽力していただきたい。

(執筆：山口 洋一郎)

千葉



村山 嘉弘  
むらやま よしひろ

1942年12月18日生

推薦者

田中 修一 飯島 宏治  
 明智 克夫 佐竹 良造

略歴

1965年 工学院大学建築学科卒業  
 1967年 北村・鶴巻設計事務所  
 1977年 鶴巻設計事務所  
 1997年 鶴巻設計事務所代表

**所信**／建築家の職能(しごと)として、変わるもの、変えてならないものを見極め、一般市民により一層理解してもらえよう地域の人達に向けた働きかけの力になればと思います。

**推薦理由**／建築家の業務のあり方に対して常に啓蒙を行いつつ事務所を主宰している姿は、会員の指標となっています。名誉会員故鶴巻昭二氏の薫陶を受け、その事務所を引き継いでいる村山氏は、JIA会員としてのあり方を最も理解している一人であると言えます。この意味に於いて幹事として適任です。(執筆：田中 修一)

栃木



武井 貴志  
たけい たかし

1956年10月15日生

略歴

1979年 日本大学工学部建築学科卒業  
 (株)更田建築事務所入社  
 1990年 テイクス設計事務所開設  
 1991年 株式会社テイクス設計事務所設立  
 現在 株式会社テイクス設計事務所代表取締役

**所信**／前期(2001年)よりJIA栃木クラブ幹事として活動しています。2002年2月には保存問題栃木大会を日光にて開催いたしました。次期においても、引き続き幹事として会の活性化に尽力していきたいと考えます。

群馬



岡田 敦志  
おかだ あつし

1952年9月27日生

推薦者

羽島 悟 石川 純男  
 長井 淳一 山内 彰

略歴

1974年 前橋市立工業短期大学建築学科卒業  
 1971年 (株)石井設計入社  
 1992年 (株)石井構建設計取締役所長  
 2000年 (株)石井設計取締役所長  
 現在に至る

**所信**／あらゆる面で大変な転換期をむかえ、今、建築家に求められる役割も大きく変化し、その領域は時代の要



請と発注者のニーズの多様化に伴い、確実に拡大し、複雑化しています。この様な社会状況の中で、地域の建築家としての役割や職能について、JIAの活動を通して微力ではありますが、日々の研鑽を重ねると同時に、その確立に努力してまいりたいと思います。

**推薦理由**／岡田会員は市内大手事務所での要職にありながらJIAの活動に積極的に参加していただいています。5年前にはJIA群馬事務局を2年間務められ、また去年今年と建築展実行委員長という立場で我々の最大のイベントを見事にまとめられました。温厚実直な人柄は群馬の代表としてふさわしいと考えますので、ここに岡田会員を幹事に推薦致します。(執筆：羽鳥 悟)

山梨



**奥村 一利**  
おく むら かず とし

1955年1月1日生

推薦者  
長田 孝三 望月 光治  
進藤 哲雄

略歴

1980年3月 東京理科大学大学院工学研究科卒業  
1982年4月 (株)東海設計東京事務所入所  
1984年4月 (有)馬場建築設計事務所入所  
1995年7月 (株)馬場設計代表取締役就任 現在に至る  
**所信**／今までに身に付けた物を十分に発揮して幹事の職を務めたいと思いますので宜敷くお願い致します。  
**推薦理由**／山梨を代表する設計事務所の長として活躍されており、山梨地域会の活動にも積極的に参加されています。幅広い人脈と情報ネットワークは卓越しており、これからのJIAを担うにふさわしい人物です。支部にとって大きな力になるものと期待し、幹事に推薦いたします。(執筆：長田 孝三)

長野



**松下 重雄**  
まつ した しげ お

1941年6月13日生

推薦者  
高橋 重徳 上村 保弘  
依田 政司

略歴

1976年 工学院大学建築学科卒業  
1987年 JIA入会  
1988年～94年 支部会員委員会  
1993年～94年 同・委員長  
1993年 支部常任幹事  
1994年 支部副幹事長  
2000年～ 長野地域会・会長  
2001年～ 支部幹事  
**所信**／JIA関東甲信越支部は、今、会員減とそれに伴う財政難に直面しています。このことは、我々が何のために集まり何を目的として活動していかなければならないかを明確にしていかなければなりません。又、市民・社会に我々の存在や役割をもっと知ってもらわなければなりません。「JIAを変えよう!!」との大宇根会長に呼応した地域活動を盛り上げ、本部、支部地域会の双方の

連の流れをスムーズにするため長野地域会の支援を受けて一層努力したいと存じます。

**推薦理由**／松下重雄さんは、JIA歴15年、支部の委員長や幹事などの役員を歴任されており、2000年度より長野地域会の会長として、ご努力頂いております。その人柄と実力は皆さんからの信頼も厚く誠実で、会員や会の運営など全体を考えての行動のできる実力者です。特に、これから地域会及び支部にとって、いろいろの問題に積極的に挑戦し解決すべき大切な時期です。改めて最適任者である松下重雄さんをご推薦申し上げます。

(執筆：高橋 重徳)

中野



**福島 賢哉**  
ふく しま けん や

1947年10月23日生

略歴

1972年 日本大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了  
1990年 (株)伊藤喜三郎建築研究所退社  
1991年 (株)賢プランズ設計事務所設立代表取締役  
2001年 中野区住宅政策審議会委員  
2001年 まちづくり推進土地建物協議会副会長・事務局長  
**所信**／現在の社会情勢は大きな変革期の中にあります。まだまだ社会的な認知度が高いとは云えない建築家の職能の確立には、チャンスの到来と受け止め、一般市民により身近かな相談者としての理解を深める活動が求められています。中野では、区内6団体で構成された「まちづくり推進土地建物協議会」が税務の他建替、不動産登記の相談を昨年開始しました。これからは、建築家の社会的使命と職能の確立のため、より広く他職能との柔軟な交流も視野に、JIA中野地域会と支部とのパイプ役に微力を尽くしたいと思います。

西東京



**富松 太基**  
とまつ たい き

1950年1月2日生

推薦者  
高松 英二 嶋津 民男  
山本 和彌

略歴

1972年 東京大学工学部建築学科卒 日本設計入社  
建築設計部を経て現在情報技術センター所属  
日本女子大学、日本大学工学部非常勤講師、SFPE(防火技術者協会)日本支部副支部長、日本建築センター、日本建築学会、建築設計委員会、防火委員会等の委員を歴任第8回セントラル硝子国際コンペ最優秀賞受賞。作品に「サンシティ」「新日館ビル」「公立那賀病院」など  
著書：「やさしい火災安全設計」(共著)、「三鷹市建築家の会」で地域活動をつづけている。  
**所信**／建築設計を通じて、防災を中心とした活動をつづけているが、まちづくりにも関係するようになって、建築家のあり方を再考している。芸術家・技術者として、ただ「作品」のみにこだわる時代ではないと思う。地域会

## 選挙公報

はそのための基礎として整備され支部はその活動を支えるべきものである。下からの発想で、ぜひ支部活動に参加したい。変貌する街の中で「変わらないもの」を求めている。

**推薦理由**／富松氏は、まちづくりや保存活動を通じ、地域活動を積極的に実践されて居り、地域会活動の中核としてがんばっておられます。今、地域をきちんと意識した支部活動を押し進める上で、適任の方と考え、ここに推薦させていただきます。(執筆者：嶋津 民男)

東京



**上浪 寛**  
うえ なみ ゆたか

1957年6月12日生

推薦者

天神 良久 中山 信二  
伊平 則夫 山下 肇

略歴

1981年 日本大学理工学部建築学科卒業  
1981～1983年 スイス連邦工科大学建築学部留学  
1984～現在 ㈱構想建築設計研究所

**所信**／今まで2年間幹事として、又アーキテツガーデンのコアスタッフとして務めさせて頂きました。JIAをわかりやすい団体とし、もっと一般市民にも認知される協会となるように活動していきたいと思えます。

**推薦理由**／上浪さんは情報開発部会でご活躍されています。特にアーキテツガーデンでは、CG画廊の運営で毎年中心的役割で会を盛りあげてくれます。今後のJIAの活性化のためにも、若手の代表としてJIAの発展に向け活躍されることと期待しています。

(執筆者：天神 良久)

東京



**鯨井 勇**  
くじら い いさむ

1949年5月4日生

推薦者

荒川 幸子 竹田 恭子  
三木 哲

略歴

1972年 日本大学理工学部建築学科卒業  
1972年 末松設計事務所入所  
1974年 小崎建築設計事務所入所  
1976年 藍設計室設立  
現在に至る

**所信**／JIA住宅部会・メンテナンス部会メンバーの方々に推薦を受け立候補させて頂きました。部会活動を通じながら「アジェンダ フォー チェンジ」における環境保護を前提とした、安全で豊かな家づくりをめざし、次世代に繋ぐ住み手と創り手にとって、よりよい関係を持続できる「しくみ」を構築する基盤づくりのために微力ではありますが、お役に立てればと思っております。

**推薦理由**／既存建物の修繕・改修や古民家再生などの仕事を通して、建築のあり方、伝統的構法や長く使い続け住み続けることについて深く考えられ、研究を積み重ねてこられた。既存建物をこわしては建替える時代は終えんし、ストックを大切に使い続けることがトレンドであり、鯨井さんはボーグである。(執筆者：三木 哲)

東京



**坂野 茂**  
さかの しげる

1965年2月12日生

推薦者

左 知子 海谷 寛  
福富 啓爾

略歴

1989年 工学院大学建築学科卒業  
1990年 ㈱ベル建築研究所設立  
現在に至る

**所信**／これまでに図面ライブラリー実行委員会、建築相談室等で活動してまいりました。現在JIA杉並地域会設立にむけ、微力ながらお手伝いさせていただいております。今後は、地域における私たち建築家の社会的役割を再発見すべく、市民とのつながりを常に考え、さらなる活動の場を広げていく所存です。

**推薦理由**／地域会、相談室共に最年少ながら、活発な発言、活動を続けておられます。会長の若い建築家の参加という呼びかけに最も相応しい方といえます。

(執筆者：左 知子)

東京



**柴田 知彦**  
しば た とみ ひこ

1946年4月28日生

推薦者

松原 忠策 南條 洋雄  
大隈 哲

略歴

1969年 早稲田大学建築学科卒業  
1971年 同大学院修士課程修了(吉阪隆正研究室)  
1972～76年 丹下健三・都市・建築設計研究所在籍  
1977年 柴田・高設計プランニング事務所設立  
1982年 SKM設計計画事務所と改称  
2001年 柴田いづみ建築設計事務所と合併  
柴田知彦・柴田いづみプラス エスケイエム設計計画事務所と改称

**所信**／建築家協会に加えていただき早25年が過ぎました。ずっと日々の活動にかまけ、無縁に等しかった会との関係が「都市デザイン部会」を介し多少なりとも深まりつつあると感じています。又、「文化庁の派遣芸術家」の選定や、今般「環境建築賞(入賞)」をいただくなど、会より榮譽をいただいた経緯があります。これからはそのお礼を含め、幾ばくかのお手伝いを心掛けて立候補する次第です。

**推薦理由**／柴田知彦さんは都市デザイン部会設立時以来のアクティブメンバーとして活躍されております。御自宅のある目白では様々な地域でのまちづくりに参加され、又、幕張ベイタウンをはじめとする多くのプロジェクトで「まちの環境づくり」を実践されておられます。加えて母校OB会で様々なイベントの責任者としてリーダーシップを発揮されておられますが、この度そうしたパワーをJIAに注いで下さる事を心より喜ぶものであります。

(執筆者：南條 洋雄)

東京



**田嶋 成幸**  
た じま しげ ゆき

1939年12月29日生

推薦者

中尾 利弘 阿部 一尋  
星田 真人

略歴

- 1965年3月 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学科修士修了
- 1965年4月 横山建築構造設計事務所入所  
山梨放送会館、東京都美術館、山梨県立美術館、弘前博物館、国立音楽大学幼稚園、石垣市民会館、瑞穂運動競技場等の構造設計担当
- 1984年10月 同事務所退社
- 1985年6月 田嶋建築構造設計事務所を設立する。  
土屋デンタルクリニック、築田寺こもれび堂、トヨタビスタ北千葉営業所、国立ハウス等を構造設計及び監理、現在に至る

**所信**／情報化、国際化の進む中で日本建築家協会に所属する建築家が創作する作品に、新しい技術、芸術を取り入れて、豊かな職能を確立させることが大切であると思います。微力ですがJIA支部の発展と地位に寄与してゆく所存です。

**推薦理由**／田嶋さんは、会員委員会の委員長を務められ、現在はミケランジェロ会の会長として会をまとめられる一方、総務委員会の相談役として活躍される等、JIAの活動に熱心に取り組まれています。人柄は温厚で、見識も深く、諸問題を抱える支部の運営の適任者と考え、幹事に推薦いたします。(執筆者：中尾 利弘)

東京



**松枝 雅子**  
まつ えだ まさ こ

1936年9月20日生

推薦者

小西 敏正 大澤 秀雄  
篠田 義男

略歴

- 1959年3月 日本女子大学家政学部生活芸術家住居専攻卒業
- 1961年4月～1963年3月 東京工業大学建築学科 石原研究室勤務
- 1973年 松枝雅子一級建築士事務所設立

1992年 ㈱松枝建築計画研究所設立 代表取締役

**所信**／1996年より建築相談室(首都圏)室員として、市民の方々の建築に関する御相談にのるという活動を続けて参りましたが、2002年度より、保存問題委員会委員もお受けすることになり、約一年が経過しました。この活動を通じて、住環境の質の向上をはかるには、職能人としての私達が、広く一般の人々への働きかけを、これまで以上に遂行していくべきであると感じました。現場をふまえた活動の声をJIA会員の皆様にご存知いただき、又新たな活動を広げていくための一端をにないたいと立候補いたしました。

**推薦理由**／松枝雅子さんは、支部の常任幹事、建築相談委員会委員を歴任され、現在、首都圏建築相談副室長を務められておりますが、今年度から保存問題委員会委員もお引き受け頂いております。今までの松枝さんのJIAにおける活発で積極的な活動と今後のJIAの発展を鑑みて、保存問題委員会を挙げて幹事に推薦致します。(執筆者：小西 敏正)

東京



**寺本 晰子**  
てら もと せき こ

1946年3月30日生

推薦者

松原 忠策 左 知子  
海谷 寛 田中 暎郎

略歴

- 都立富士高等学校卒
- 法政大学工学部建設工学科建築専攻卒
- 法政大学工学部助手
- (株)建築計画研究所(橋本邦雄氏)(株)増田建築設計事務所を経て(株)マアーキテクチャーオフィス主宰
- 葛飾区・墨田区建築紛争調停委員

**所信**／職能団体員として、職能を通して社会貢献活動に参加すること、かつ活動を支える一助の役割を担うこと。

**推薦理由**／寺本さんは、東京建築士会や東京都住宅バリアフリー推進協議会の理事を勤められ、本会に於いては建築相談室で活躍されています。これから関東甲信越支部も資格問題やCPD等で他会との連帯を強めたい所であり、寺本さんのような人材は大変貴重な存在であります。(執筆者：松原 忠策)

監査候補者名簿

千葉



**島 貴 俊秀**  
しま ぬき とし ひで

1939年7月18日生

略歴

- 昭和39年3月 千葉大学工学部卒
- 4月 ㈱鴻池組入社
- 昭和42年6月 ㈱呉羽化学入社
- 昭和44年6月 設計事務所独立
- 現在に至る

**所信**／一般社会が変革の時代に入った今日、建築界も当然のこととしてそれに対応して行かなければならない。日本で唯一の建築家の団体として、JIAが次世代に引継ぐためには何をしなければならぬかは重要な課題である。この意味に於いて、監査を通じて機構整備に取組みたい。

**推薦理由**／広域な範囲で設計事務活動を展開する傍ら、ISO審査員の資格も所有するなど、多角的に業務をされています。実務以外にも千葉市少年少女オーケストラを主宰し、若者の情熱育成に力を注いでいるのは氏の人間性の高さの現れとして尊敬に値します。JIA活動に関しては、本部理事・支部幹事・地域会代表を歴任しており、監査として申し分ありません。(執筆者：田中 修一)

## 地域会だより

### 埼玉

## 2003年度を前に

JIA埼玉 染谷 勝之

埼玉で設計を業とする方々とおつきあいが30年を過ぎました。ここには、JIA埼玉地域会の他に、旧家協会とともに「職能法定」で共闘し、一時は大同合併の気運もあった日本建築設計監理協会連合会に属していた(社)埼玉建築設計監理協会、(社)埼玉建築士会、(社)埼玉県建築士事務所協会、日本建築学会埼玉支所があります。県内の建築士の多くが複数の団体に属しているのが現状で、それぞれの団体が自己主張することで、己の存在を世間にアピールすべく事業活動を行っています。

各会とも活動に参加する会員の数が少ないのが悩みであり、活動の幅にも広がりが見られないのに一緒に催事を行うことも会合を持つこともないようです。

私がこの世界に入ったころ、ある先輩から「同業者の会は、所詮、商売敵の集まり」と思いなさいと言われたことがあります。昨今の動きを見ていると我こそはとの感がある五つの団体です。最低でも新年度事業計画作成前に会長会を開催し、各団体間の理解度を深め、なによりも消費者に誤解をされないための努力が必要ではと考えています。生い立ちも育った環境も違う五つの団体ですが、会の構成員はいずれも建築士です。どの会も30代の会員が少なくなりました。世の中の仕組みも急激に変わって時世です。建築士、建築家がどうしてもそのすべてを消費者に理解されねばならぬ時とも思えます。互いを理解し合うことも重要なことです。新たな建築資格制度の創設にJIA、士会が基本合意しました。資格で生活の保障を求めたり、特権によって職業の安定を願うことは不可能です。市民、社会が求めている建築士、建築家像を探し出すことから始めてほしい。裾の広い建築という世界、各々の団体がカバーする領域には事欠かないとも思えます。

埼玉という地の利と、時代にめぐまれ、学校建築を中心として過ごしてきた私は、本年はじめ次のような文章に出会いました。「設計能力、設計期間、設計費等の点で、ほかの建物の設計はできないけれど、学校建築ならできるとい時代が長く続いた。それを可能にしたのが標準設計であり、地元の設計業者の仕事だった」(建築雑誌2003-1)。どうしても社会、市民に信頼され、共に造る喜びを得る仕組の確立が地域会にかせられた課題と認識した年の初めでした。

〈(有)勝建築設計事務所〉

### 栃木

## スクール in Tour そして2003卒業展

栃木クラブ 武井 貴志

昨秋この場で、建築を巡りながらディスカッションを重ねる旅、スクール in Tourの予告をさせていただきました。今回はその報告です。

総勢25名、学生も交えて楽しい一日を過ごしました。4件の建築を訪ねながら、各自感想を述べ合う休む暇のない濃密なバトルトークTourの企画でした。

出発し、いきなり建築模型について。設計の現場で模型はどのように利用されているか。唐突ですがいかにも学生が食いつきそうな話題です。到着したのが須賀川市の現代グラフィックアート・センター。模型をそのまま大きくしたような建築で、そうか話はこの地に繋がるのかと妙に納得。次に昼食も兼ねて、隈研吾氏の川/ルーバー、蕎麦屋です。自然と話題はルーバーの効果と場所を生かす建築というあたりに移りました。

続いて訪れた郡山市のビックパレットふくしまと、福島男女共生センターを比較しながら、建築がその場所に生み出す物などという高尚な話題は、たまたま開かれていた、みのもんたの公開イベントの話題に飲み込まれ、次ぎには実務家らしくディテールの批判に落ち着くという、ありがちな話題展開となってしまいました。とはいえ、建築の好悪も立場も世代も違う意見が聞けるのはありがたい機会でした。終わってみると、会員がマイクを持っている時間が長すぎたかなと若干反省しています。おじさんが若者に建築の見方を教えている、ってな状況になってしまうのは、学生が固くなっているからなのか、我々の理屈好きな性分がさせるのか。団体戦に持ち込むなど、企画側の工夫が必要であると、次回への宿題が出来ました。

さて、学生絡みでもう一つ。毎年恒例、県内学生卒業作品に対する栃木クラブ賞の準備が始まっています。今回の展示会場は、宇都宮市の中心部、それも市が一度埋めてしまった宇都宮城の堀を再び掘り返して、城趾公園として復活させようとしている話題の場所です。学生たちのフレッシュな提案に触れながら、宇都宮の都市計画についても話し合えればと期待しています。

〈(株)ティクス設計事務所〉



福島男女共生センター

中野

総合学習の研究授業に参加して

中野地域会 中村 陽子



ここ数年、中野地域会では未来をにう子供たちに「建築」への関心を持ってもらいたいと、様々な活動をしています。その中に小学校の総合学習への取組みがあり、地域の小学校へ提案を行なってきました。今回は石井千歳メンバーの提案と学校のカリキュラムとが一致しての講師依頼です。授業は去る1月15日に中野区立桃園第二小学校の4年生に向けて行なわれました。2クラスの担任の先生方はベテランと新任、共に熱心な先生です。新たに始まったばかりの総合学習は先生方にとっても試行錯誤の取り組みなのでしょう、事前に打合わせが何度もなされました。

建物のイラストや写真を大きく引き伸ばして黒板に貼り、3つ（セネガル、チュニジア、南アフリカ）の国の住まいを紹介していきます。子供たちに説明をし、質問をしながら授業を進めます。先に担任の先生がそして次ぎに「石井先生」が授業を進めます。

選びに選んだ住まいはその形態も色彩も日本の住まいとは大きく異なっていて、子供たちの目を釘づけにします。身を乗り出して写真を見えています。考えさせもっと興味を持つように質問を投げかけ、その答えを受けて展開していきます。4年生に分かる言葉だけで話をする事はなかなか難しく、石井さんは何度か「わかるかなー」と言いながらの授業です。質問と答えのやり取りは活気があり、しかも子供らしい素直なものでした。「石井先生」は外壁に絵が描かれた家を紹介しながらデザインのこと、家や暮しを楽しむことを語っていきます。「課題」の家以外にも関連した写真を見せながら、自分が感動したことを語りました。

授業は研究会としての取り組みでしたので、その後各学年の先生方と区の教育委員会・専門指導員の方との協議会がありました。その中で「ゲストティーチャー」と協力した学習活動の在り方のお話しでは、今後も地域会として総合学習に取組んでいく時の、課題と方向性への示唆を得ることができました。

〈創作工房I〉

山梨

私小説的な何も起こらない建築

JIA山梨クラブ 進藤 哲雄

夜、寝ながらベッドで短編小説を読んでいる。長篇だと重いし、面白いとつい読み進んで夜更かしをしてしまうので、あまり面白くなさそうな短編を選んで読んでいる。かといってセレクションはミーハーで何か賞を取った作家や、話題になった作家の短編集だったりするが。

最近読んだ作家、川上弘美、吉田修一、大道珠貴、長嶋有の作品に共通しているのは、小説の中で何も起こらないことだ。時間は作家おのおののテンポで淡々と流れ、日常生活の細々としたことが、だらだらと書かれている。競争することを小さい頃からあきらめてしまった若くない主人公が、ニヒルではないが醒めた視点でどこか他人事のように生きている。そしてみごとに何も起こらない。まあ小説なので親が死んだり、恋人に振られたりはするのだが、日常の時間の中で普通のこととして語られ、スベクタクルやドラマにはならない。僕より当然若いだろう作家の何事も相対的に冷静に見ようとする「意志」のようなものを感じる。

でも待てよ、と夜1時すぎたベッドの中で思いついた。「良質の建築」というのも、こんな短編小説のようなものかもしれない。建築がドラマチックでスベクタクルであった時代は終わってしまって、何も起こらないが日常の中でちゃんと納まっている、そんな建築が求められているのかもしれない。でも一般的な日常からは微妙にずれていて、よく見ると小さなトゲも生えている。ニヤッとする仕掛けや、屈折した作家の誠実さもちょっと見えるそんな建築。案外いいんじゃないか、と一人で納得した。建て前のリッパな建築は作るほうもくたびれるが、使う方はもっとくたびれるだろう。そして何よりもそのへんのオバさんたちからも見抜かれている。

「私小説的な何も起こらない建築」これで1年ぐらいはやれるかもしれない、とあまり能力のない建築家が仕事に悩む夢に落ちながら思った。

〈(株)進藤設計事務所〉

## 活動報告

1月	セミナー・事業等	委員会・部会	地域会・本部・その他
4	建築相談室		
7	建築相談室	相談記録WG/建築相談委員会	環境講堂委員会分科会/保険WG
9	建築相談室	首都圏相談室報告会/ホームページWG	役員会(神奈川)
		保存問題委員会/相談・出版WG	選挙管理委員会/国際委員会
		暮らしと住まいの相談室	PM/CM打合せ
		メンテナンス部会編集会議	まちづくりメルマガWG
10	建築相談室	総務委員会	小規模建築用契約書打合 神奈川建築士会合同会議(神奈川)
11	建築相談室		
14	建築相談室	広報委員会/交流委員会幹事会	編集会議
		賛助B幹事副幹事会議/賛助E幹事副幹事会議	
15		アーバントリップ実行委員会	大学卒業設計コンクール委員会(神奈川)
		賛助C幹事副幹事会議/技術情報シート編集部会	
16	建築相談室	建築セミナー実行委員会/情報開発部会	企画運営会議/資格制度委員会
		学生デザイン実行委員会/保存問題WG	まちづくり支援会議/保険WG
		図面ライブラリー実行委員会	QBS推進WG
		情報開発部会+賛助G勉強会	
17	新会員の集い/会員研修会 新春の集い/建築相談室		建築相談室(群馬)
18	建築相談室		建築相談室(埼玉)
20		大学修士設計展実行委員会	建築相談室(神奈川)/賛助会役員会(神奈川) 新年の集い(神奈川)
21	建築相談室 建築セミナー	賛助D幹事副幹事会議 高齢者・障害者WG	業務委員会/建築相談委員会 ハートビル部会
22		賛助B幹事副幹事会議 交流セミナー実行委員会/デザイン部会	事業WG/QBS推進WG 幹事会(長野)
		メンテナンス部会編集会議	月例会(茨城)
23	建築相談室	賛助A全体会議/相談委員長室長会議 相談記録WG	名誉会員選考委員会
24	建築相談室		CPD評議会全体会/編集会議/PPC会議打合せ 役員会(埼玉)/JIA埼玉交流会(埼玉) 建築相談室(群馬)
25	プロフェッショナルスクール		建築相談室(神奈川) ビジョン委員会(中野)/新年会(中野)
27		JIA大会2004企画委員会	建設産業基本問題委員会 AIA-JIA会議打合せ/監理問題WG
28	建築相談室 建築セミナー	事業委員会/CPD委員会/教育委員会	外部評価WG/資格WG主査会議 研修会(群馬)
29		常任幹事会 交流広報部会	支部長会議/倫理委員会/記者懇談会 表彰等委員会/小規模建築用契約書打合せ
30	建築相談室	ホームページWG/賛助B打合せ	教育研修WG
31	建築相談室	監査会議	UIA基準WG/WTO意見検討WG 建賠セミナー打合せ/建築相談室(神奈川) 建築相談報告会(神奈川)/建築相談室(群馬) 創作研究会議(新潟)
2月	セミナー・事業等	委員会・部会	地域会・本部・その他
1	プロフェッショナルスクール 建築相談室		
3			PM/CM打合せ/役員会(神奈川)
4	建築相談室/建築セミナー		資格・規則WG/建築相談室(神奈川)
5		建築相談委員会/ 首都圏建築相談室報告会 JIAトーク実行委員会/プレ相談委員会 相談記録WG/住宅再生分科会	会員種別・会費種別に関する検討委員会 賛助会幹事会(神奈川) 新潟の町屋を生かす会議(新潟)
6	建築相談室	交流大会実行委員会 賛助E幹事副幹事会議/Bulletin座談会	LF懇談会幹事会/総務委員会 ものづくり大学共催研修会(埼玉)
7	建築相談室	保存問題委員会	国際委員会/JIA東京幹事会 建築相談室(群馬)
8	建築相談室		役員会(埼玉)
10		広報委員会 交流賛助幹事会	環境行動委員会/国際交流基金管理運営委員会 編集会議/資格WG/建築相談室(神奈川)
11	建築相談室		

活動報告／予定

12	連続セミナー	選挙管理委員会／賛助C幹事副幹事会議 技術情報シート編集部会／住宅部会 メンテナンス部会	広報委員会／QBS推進WG
13	建築相談室	JIA大会2004企画委員会 賛助B幹事副幹事会議 ホームページWG／保存問題WG 高齢者・障害者WG 都市デザイン部会	企画運営会議 資格制度委員会
14	建築相談室		CPDシステム部会／建築相談室（群馬）
15	建築相談室		建築相談室（埼玉）
16			建築相談室（千葉）／月例会・新年会（山梨）
17			倫理委員会／表彰委員会 オープンスクール会議
18	建築相談室／建築セミナー	賛助D幹事副幹事会議	
19		総務委員会／相談WG主査会議 相談記録WG	都市災害部会／事業WG 資格委員会打合せ 月例会（茨城）
20	建築相談室	苦情対応委員会／交流大会実行委員会 学生デザイン実行委員会 賛助A全体会議 情報開発部会・賛助G全体会議	建築相談委員会 QBS全体会議／委員長・部会長会合 資格主査会議 資格・規則WG
21	交流セミナー／ハートビルセミナー 建築相談室	交流拡大幹事会	建築相談室（群馬）／書籍出版会議（新潟）
22	保存問題長野大会（2/22・2/23 於：長野市）		役員会（千葉）
23			千葉県建築四会学生賞連絡協議会（千葉）
24			建設産業基本問題委員会 資格・同等性WG／定例会（中野）
25	建築相談室 建築セミナー	事業委員会／教育委員会 相談委員長室長会議／住宅部会	基本政策課題統括委員会
26		常任幹事会／フレ相談委員会 交流・広報部会／デザイン部会	支部長会議／理事会 記者懇談会
27	建築相談室	JIA大会2004企画委員会	PPC・WG
28	建築相談室	編集会議 ホームページWG／相談室打合せ	CPD評議会幹事会／建築家の業務セミナー打合 建築相談室（神奈川）／建築相談報告会（神奈川） 建築相談室（群馬）／ビジョン委員会（中野）
4月	セミナー・事業等	委員会・部会	地域会・本部・その他
1	建築相談室		建築相談室（神奈川）
2	建築相談室		
3	建築相談室	建築相談委員会 首都圏相談室報告会	建築相談室（千葉）
4	建築相談室		
5	建築相談室		役員会（埼玉）／勉強会（群馬）／役員会（新潟）
7	建築相談室		総会（中野）
8			役員会（神奈川）
9			賛助会幹事会（神奈川）
10	建築相談室		企画運営会議／資格制度委員会
11	建築相談室	役員会	
12	建築相談室		
14	QBS意見交換会		建築相談室（神奈川）
15	建築相談室		
16	JIA実務セミナー	アーバントリップ実行委員会	役員会（千葉）／月例会（山梨）
17	建築相談室		建築相談室（千葉）
18	建築相談室		月例会（茨城）
19	建築相談室		建築相談室（神奈川）／建築相談室（埼玉）
22	建築相談室	選挙管理委員会	
23			支部長会議／理事会
24	建築相談室		
25	建築相談室		建築相談室（神奈川）／建築相談報告会（神奈川） 建築相談室（群馬）
26	建築相談室		総会（群馬）
29	建築相談室		

\*いきいき街づくり委員会設立委員会（栃木）（4月中）

\*学生卒業設計コンクール公開審査会（長野）（4月中旬）

## イベントセミナー情報

## JIA連続セミナー「建築界の新しい風——広がる活動領域」第3回

シンポジウム「世界の建築家業務——その実態と理想」

(CPD認定プログラム：3単位)

講演内容：

- ①「Trade Liberalisation – Architects Take Consequences: The UIA Accord」：貿易自由化—建築家は責任を担う：UIA協定 講師：ジェームズ・シーラー氏 (AIAフェロー、JIA名誉会員、UIA-PPC前議長)
- ②「Practice Standards of Architects and the Use of the UIA Accord – a World-wide Comparative Analysis」：建築家の実務スタンダード及びUIA協定の利用—国際比較分析 講師：ジョルディ・ファランド氏 (スペイン、カタルニア建築家協会、UIA-PPC相互承認ガイドライン起草委員長PPC委員)

日時：4月2日(水)15:00～18:00

会場：工学院大学-0312 (東京都新宿区西新宿1-24-2)

参加費：1回5000円 (ただし、第1回「PM・CMの潮流」(2月12日実施終了)/第2回「建築家の業務と報酬」(3月17日)分と合わせて申込みの場合、参加費は異なります)

主催：(社)日本建築家協会

企画運営：(社)日本建築家協会教育関連事業推進委員会事業WG 企画協力：日刊建設通信新聞社

後援：(社)日本建築学会、(社)日本建築士会連合会、(社)日本建築士事務所協会連合会、(社)建築業協会

申込先：JIA事務局 (担当：菊地) Tel 03-3408-7125 / Fax 03-3408-7129 / E-mail: rkikuchi@jia.or.jp/

## JIAシンポジウム「設計者選定方式QBSの展開」

—横須賀市の実践をふまえ、さらなる向上をめざして

(CPD認定プログラム：3.5単位)

- ①挨拶：大宇根弘司氏 (社)日本建築家協会会長
- ②QBS方式の包括的説明：松原忠策氏 (JIA関東甲信越支部長)
- ③パネルディスカッション—横須賀市立武山小学校体育館、(仮称)横須賀市衛生試験所を中心に  
パネリスト：高田利男氏 (横須賀市都市部建築課長)・齋藤孝彦氏 (武山小学校選考委員長)・  
村尾成文氏 (衛生試験所選考委員長)・東原克行氏 (武山小学校入選者、前川建築設計事務所)・  
高橋晶子氏 (衛生試験所入選者、ワークステーション)・山本理頭氏 (美術館入選者、山本理頭設計工場)
- ④閉会挨拶 (まとめと今後の方針)：倉橋潤吉氏 (JIA QBS推進WG主査)

日時：4月14日(月)13:30～17:00

会場：住宅金融公庫1階すまい・るホール (東京都文京区後楽1-4-10)

受講料：1000円/学生：無料

主催：(社)日本建築家協会

申込先：JIA事務局 (担当：菊地) Tel 03-3408-7125 / Fax 03-3408-7129 / E-mail: rkikuchi@jia.or.jp/

## JIA実務セミナー「マンションリフォーム」

(CPD認定プログラム：6単位)

- ①「マンション管理と建築家の役割」講師：三木哲氏 (共同設計・五月社)
- ②「大規模修繕工事実施のプロセスと設計図書作成」講師：柴田幸夫氏 (柴田建築設計事務所)
- ③「実例に見る第1回目の大規模修繕—調査診断から改修工事完了まで」講師：星川晃二郎氏 (汎建築研究所)

日時：4月16日(水)10:00～17:00

会場：住宅金融公庫1階すまい・るホール (東京都文京区後楽1-4-10)

参加費：12,000円 (JIA会員および会員事務所所員) / 15,000円 (その他・一般) (レジュメ資料・テキスト代を含む)

定員：200名

主催：(社)日本建築家協会

企画運営：JIA教育関連事業推進委員会事業WG、JIA関東甲信越支部メンテナンス部会

企画協力：日刊建設工業新聞社 後援：住宅金融公庫、住宅リフォーム・紛争処理支援センター

申込先：JIA事務局 (担当：菊地) Tel 03-3408-7125 / Fax 03-3408-7129 / E-mail: rkikuchi@jia.or.jp/

## 目黒区役所見学会「旧千代田生命が生き続ける建築に魅る」

(CPD認定プログラム申請中)

日時：4月24日(木)14:00 (現地集合)～

説明：目黒区役所 担当者・安井建築設計事務所 担当者

定員：50名

参加費：1000円 (資料代含む)

主催：JIA関東甲信越支部事業委員会

申込先：JIA関東甲信越支部事務局 (担当：原田) Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

お申し込みになるイベントを○で囲み、Fax 03-3408-8294または郵送でお送り下さい。

・ JIA建築セミナー ・ JIAシンポジウム ・ JIA実務セミナー ・ 目黒区役所見学会

会員番号	氏名	所属事務所・会社名	T E L
所属先住所			F A X
〒			



# 環境問題に絡む最新の技術情報



宮宇地 信喜

## — 床材用接着剤の最新動向 —

### はじめに

今や環境問題を語らずして将来のビジネスはあり得ません。その環境問題の中でも、我々のような建設業に携わる者にとって、特に重要でかつ影響度の大きな潮流とえば、以下の二つに集約されると思います。

- (1) 産業廃棄物の削減に絡むリサイクル問題
- (2) ホルムアルデヒド及びVOCに絡む室内空気汚染問題

この二つは、何れもその重要度からして甲乙つけ難いものですが、緊急度という点から、後者の(2)について以下に記述したいと思います。

### 1. 2003年7月施行予定の建築基準法の改正について

前述の室内空気汚染問題(シックハウス、シックスクール)対策の為に、2002年4月に文部科学省による<sup>(注1)</sup>「学校衛生基準の改正」があり、これを補完するような形で、2003年7月にホルムアルデヒドの規制を強化した建築基準法の改正がいよいよ施行されます。

この改正のポイントは以下の3つです。

- ① クロロピリホス(防蟻剤)の使用禁止
- ② ホルムアルデヒドを発生するおそれのある 建築材料の使用制限(面積制限)
- ③ 在来木造住宅を除き、換気設備の義務付け

この中で、弊社のようなインテリア材料製造メーカー

にとって一番大きな影響となっておりますのが前述②であります。

その②の対象建築材料としては、図-1に示すように構造用パネル、合板、フローリング、パーティクルボード、中質繊維板(MDF)、塗料、壁紙、壁紙用でんぷん糊、床用接着剤等々非常に広範囲に及んでおり、これにより多くの建築材料製造業界及びメーカーが少なからずも影響を受け、かつてない多くの建築材料が大幅な改良(善)を強いられる事になります。

その中で、弊社にとって一番関連が深い、床材用接着剤の今後について順次説明していききたいと思います。

図-1の個別規格を参照して頂きますとわかりますが、従来はビニル系床材に多用されている床用接着剤は、高分子系張り床材用接着剤JIS A 5536の中で規定されておりましたが、これに木質系床材用接着剤も加わり、接着剤関係の構成が大幅に増加したJISに改正されます。

更に詳述致しますと、表-1及び表-2に示すように、床材用接着剤は<sup>(注2)</sup>一部の原材料規制と、2003年2月に制定された20L小型チャンバー法の測定で得られたホルムアルデヒド放散速度により3ランクに分かれ、そこに使用される表示記号F☆☆☆☆~F☆☆☆は全ての建材の統一表示となります。

その中で最優良表示であるF☆☆☆☆のみ、今回の建築基準法では無制限使用が認められており、その他のグレードには面積制限があります。

## 技術情報シート D-3 (インテリア・材料)

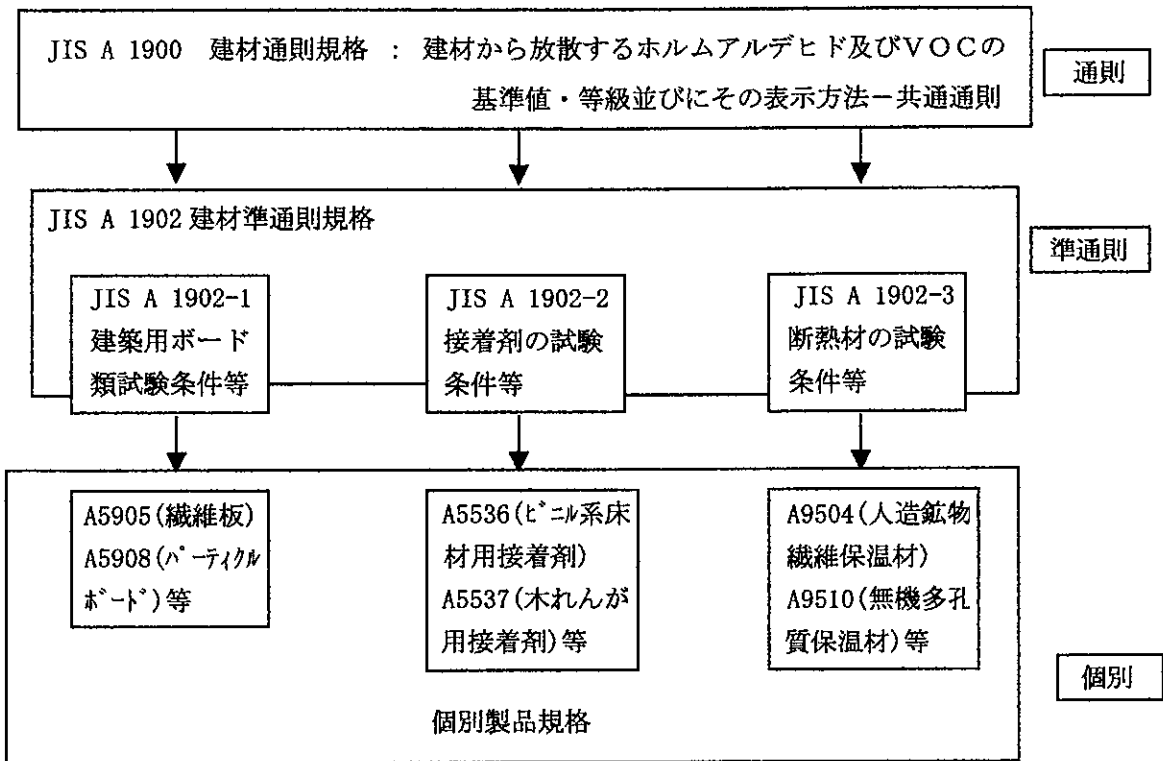


図-1 改正JISの体系図 (ホルムアルデヒド放散に関するJISの体系図)

従って、この建築基準法の施行後は事実上、全ての接着剤において、このF☆☆☆☆表示のものしか使用できない事になります。

(注) 「学校衛生基準の改正」の要旨

①年1回の定期検査を義務づける。しかも、従来の簡易測定法ではなく、捕集管で捕集して分析する精密測定法に変更する。

②測定物質はホルムアルデヒド、トルエンは必須物質であり、必要に応じてキシレン、パラジクロルベンゼンも含める。

③前述で②で測定した分析データの合否判断基準は、厚生労働省の指針値以内であることをもって判定する。そして、この指針値内であることを確認するまで引き渡してはならない。

表-1 接着剤JISA5536の新規個別製品規格

記号	表示記号	内容	チャンバー法データ	備考
Af <sub>0</sub>	F☆☆☆☆	居室内用として制限なし	放散速度 5 μg/m <sup>2</sup> ・h以下	
Af <sub>1</sub>	F☆☆☆	居室内用として使用 面積制限有り	放散速度 20 μg/m <sup>2</sup> ・h以下	第3種
Af <sub>2</sub>	F☆☆	居室内用として使用 面積制限有り	放散速度 120 μg/m <sup>2</sup> ・h以下	第2種

## 技術情報シート D-3 (インテリア・材料)

表-2 床材用接着剤の原材料規制

単位  $\mu\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{h})$ 

区分	内容	主成分	適用試験簡条
F☆☆☆☆等級	ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド系防腐剤、メチロール基含有モノマー及びロンガリット系触媒のいずれをも使用してはならない。ただし、メチロール基含有モノマー又はロンガリット系触媒を使用した場合は、5.3.8で規定する試験によって放散速度が5以下のもの。	酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形 ビニル共重合樹脂系エマルジョン形 アクリル樹脂系エマルジョン形 ゴム系ラテックス形 エポキシ樹脂系 ウレタン樹脂系 変成シリコーン樹脂系	(ただし、メチロール基含有モノマー又はロンガリット系触媒を使用した場合は、5.3.8)
F☆☆☆☆等級	放散速度が5以下	酢酸ビニル樹脂系溶剤形	5.3.8
F☆☆☆等級	放散速度が20以下	ビニル共重合樹脂系溶剤形	
F☆☆等級	放散速度が120以下	ゴム系溶剤形	

(注<sub>a</sub>) 表-2「内容」の項参照

表-2の内容の項に規定するように、ホルムアルデヒドを放散するおそれのある樹脂及びその触媒については特に厳しい原材料規制が付加され、施行されることとなります。

## 2. 今後の床材用接着剤の動向

概略は表-2の原材料規制の項で少し触れましたが、要は使用樹脂と使用する触媒を厳しく制限して、ホルムアルデヒドの放散を抑制しようとするものです。

その中で使用する樹脂については、そう簡単に変更できるものではありませんので、自ずと使用する触媒の選択に絞られる事になります。

そこで、表-2の適用試験簡条を見て頂ければお気付きかと思いますが、『メチロール基含有モノマー又はロンガリット系触媒を使用した場合、独自で放散速度の測定を義務づける。』と記載されております。

わざわざ適用にまでこれを記述すると言う事は、換言すればこれに該当する接着剤がいかに多かったかと言う証明でもあります。

ここ迄記述致しますと、もうおわかりかと思いますが、今後の床材用接着剤は、このメチロール基含有モノマーとロンガリット系触媒を排除する事に他なりません。

弊社もこのような動向に対応する為に、去年より低臭ラテックス接着剤(近日中にエコロイヤルセメントと命

名)、低臭ウレタン接着剤(近日中に東り低臭USセメントと命名)、AR-100と上市し、かつ本年4月にはF☆☆☆☆基準をクリアし、かつ使い勝手の良い新タイプの接着剤を3種類発売する予定です。

## 3. 今後の問題点

床材用の接着剤に求められる機能として、比較的早い時間(15分~30分位)で発現する初期タック力(粘着力)が必要になります。これによりクセのある床材を押さえ込み、徐々に固化(又は硬化)して床材を固定させるという性能が必要なのであります。

しかし、ロンガリット系触媒をノンロンガリット系触媒に変更していきますと、どうしてもこの初期タック力という点では劣ってまいります。

今後は、法的な規制もありノンロンガリット化は避けようもありませんが、一方では床材の施工面という側面から見た場合、クセのある床材(例えば、リノリウム)の施工が非常に難しくなる事は必至だと思います。

ここに我々メーカーの課題が潜んでおります。

要するに、ノンロンガリットタイプの接着剤でありながら、タック力も従来品と比べて遜色がない接着剤を開発する。もしくは弱いタック力であっても簡単に施工できるような床材の開発に全力を尽くす。

これらの課題を早急に解決したメーカーが真のリーディングカンパニーだと考えております。

## 技術情報シート D-3 (インテリア・材料)

### おわりに

最後に、弊社も全社をあげて、この重要課題に取り組んでまいります。何分にも大幅な改善が、しかも早急に要求された為に、どこまで市場に受け入れられるか不安を抱きながらの船出でもあります。

真のリーディングカンパニーを目指し、今後も鋭意努

力をしてまいりたく存じますので、何卒御支援を賜る事をお願い致します。

(東リ株式会社)

URL : nobuki\_miyauchi@toli.co.jp

TEL : (06) 6494-1535 (ダイヤルイン)

### Q&A コーナー

Q1 : 従来、合板に使用されていた性能表示 F<sub>co</sub> ~ F<sub>ce</sub> やパーティクルボードに使用されていた性能表示 E<sub>o</sub> ~ E<sub>e</sub> は今後どうなるのですか。

A1 : 明確な実施時期はわかりませんが、順次基本的に全て F☆☆☆☆ ~ F☆☆表示に統一されます。少なくとも、7月の建築基準法の施行迄には統一されると思います。

Q2 : 下地材には F☆☆☆☆ 以下のもの、表面材のみ F☆☆☆☆ の場合の取り扱いはどうなるのか。

A2 : 法的な解釈をすれば、下地材であっても面積制限が問われますので、使用するにあたっては御注意下さい。

Q3 : F☆☆☆☆ の建築材料への表示はいつ頃から実施されるのですか。

A3 : 今回の改正建築基準法は 2003 年 3 月 20 日に告示されます。そして、3 月 21 日より F☆☆☆☆ の表示が解禁になります。

従って、この日以降、各業界 (又は各メーカー) は準備出来次第、F☆☆☆☆ 表示を実施していく予定です。

Q4 : 改正建築基準法 (7 月 1 日施行) 制定迄は、F☆☆☆☆ 表示をしていない建築材料を使用してもよいのですか。

A4 : 基本的に OK です。7 月 1 日迄は移行の為に猶予期間と考えて下さい。

逆に考えれば接着剤のようなものは、6 月末迄に必ず使いきって下さい。

D グループ担当委員 長尾俊夫、川村真兎、河村大助、竹ノ内洋一郎  
交流委員会ホームページアドレス <http://www.jiakanto-koryu.org/>

#### <賛助会員各グループ構成一覧>

**Aグループ** (A1-仮設・土木・杭、A2-コンクリート・鉄筋、A3-鉄骨)、

**Bグループ** (B1-防水、B2-左官・塗装・吹付)、

**Cグループ** (C1-ALC・PC・押出成形セメント板、C2-石、C3-タイル、C4-屋根・金属、C5-建具・ガラス・プラスチック)、

**Dグループ** (D1-エクステリア・内装工事、D2-家具、D3-インテリア・材料)、**Eグループ** (E1-電気設備施工、E2-電気設備メーカー、E3-搬送設備)、

**Fグループ** (F1-空調衛生施工、F2-空調衛生メーカー、F3-エネルギー関連)、**Gグループ** (G1-CAD・情報処理、G2-教育・出版)

## 本部支部役員の声

### 変革の時代の建築家資格制度

副幹事長／本部建築家資格制度推進委員会委員 米澤 正己

JIA本部においては、昨年11月1日付けで日本建築士会連合会と調印した「新たな建築資格制度の創設に向けた基本合意書」の内容に基づき、建築家資格制度推進委員会においてJIAとしての建築家資格制度の在り方に関する具体的方針および行動計画策定に向けての作業が精力的に進められています。

何のための建築家資格かを問うた場合、その制度化の目的は常に社会の側に立って公益を守ること（発注者と公衆の保護）を第一義として考えることが大事でしょう。資格制度の機能自体は、設計者個人の能力保証に係わる情報の開示と業務遂行の資格者限定（業務独占）を通じた業務品質保証にあります。今回の資格制度の試行の第1段階はその内の社会的制度としての情報開示の制度的枠組みを作ることにあると言えます。建築家の資格とその職能に関する情報開示が建築家に対するアカウンタビリティの確保につながり、社会的な信頼の礎となることが期待できるからです。

建築家資格認定基準の内容に関しては、日本国内基準に付加する形でJIAの提唱している基準との整合性を図る作業を進めていますが、認定機関の第三者性もきわめて大事な課題です。第三者性とはその資格制度の対象となる建築家個人とあらゆる利害を共有しないことが担保された主体性ということでしょうが、そのためには建築家個人を構成員とする職能団体であるJIAが資格の認定機関とはなりえません。アメリカにおいては、NCARB（建築家資格登録全国評議会）の構成員である各州政府の建築家資格登録委員会が資格の認定を行っており、民間の専門家なども含めた行政の委員会が行なうことによって第三者性を確保しています。JIAでは資格の認定機関が特定目的の非営利活動法人（NPO）として設立されることを期待していますが、アメリカにおいては政府（行政機関）もNPOの範疇として解釈されていることを考えれば、これもきわめて有効な手段だと考えられます。JIAとしても建築家資格認定機関が第三者機関として外部に設立され、登録制度自体に第三者性が担保されることにより、登録建築家を目指す人々や資格を取得した登録建築家に対してCPDなど各種職能教育を提供するサービス機関として、そして專業建築家のための職能団体として、その活動目的をより明確にすることが可能になると考えられます。

## 編集後記

■2号にわたり特集「JIAの周縁」を掲載しましたが、たくさんの会員、非会員の方にご協力を頂きました。あらためてお礼を申し上げます。この特集に、広報委員会のメンバーが費やした時間と労力は大変なものでしたが、今後もこのような特集を企画したいと考えています。ぜひご意見、ご感想や提案を広報委員会の事務局宛にお寄せ下さい。（S.M.）

### ■お詫びと訂正

本誌2003年2月号34頁「アーキテクト・ガーデン 2002建築祭・報告」の今井均氏による「セミナー『循環型社会の家づくり』木造は構造から意匠まで幅広く関われるもの」において、以下の誤りがありました。

お詫びして訂正いたします。

誤 正

上から3行目 齋藤孝彦会長→齋藤孝彦座長

// 5行目 国と交通省 →国土交通省

// 13行目 現代経済 →現代環境

編集：社団法人 日本建築家協会  
関東甲信越支部広報委員会

委員長：高木恒英

副委員長：米澤正己、森岡茂夫

委員：荒川幸子、加藤文男、郡山 毅  
須永信一、関野宏行、武田有佐  
寺山 実、深川良治、松原和哉

編集長：森岡茂夫

編集委員：加藤文男、郡山 毅、高木恒英  
深川良治、真鍋善嗣、原田譲治

発行人：菊地良一

発行所：社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館  
TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294

©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2003

### JIA 関東甲信越支部関連サイト一覧

(社)日本建築家協会本部 (JIA) <http://www.jia.or.jp>  
JIA 関東甲信越支部 <http://www.jia.or.jp/kanto>

交流委員会 <http://www.jiakanto-koryu.org>  
保存問題委員会 <http://www.archiweb.com/jia-hozon>  
JIA 建築セミナー <http://www.jia.or.jp/kanto/seminar>

住宅部会 <http://www.jia.or.jp/kanto/jutaku>  
情報開発部会 <http://www2.bpc.co.jp/jia>  
都市デザイン部会 <http://www.jia.or.jp/kanto/ud>

中野地域会 <http://www.eva.hi-ho.ne.jp/jia-nakano>  
群馬地域会 <http://www6.wind.ne.jp/jiagunma>  
長野地域会 <http://www4.ocn.ne.jp/jia-naga>  
神奈川地域会 <http://www.jia-kanagawa.org>  
西東京地域会 <http://www.jia-nishitokyo.org>

定価300円(購読料は会費に含まれています)



Less is More



サティスは、貯水タンクをなくした画期的発想のトイレです。タンクレスが可動空間を広げ、貯水時間をなくし連続使用ができます。さらに、プラズマクラスターイオン<sup>®</sup>技術による「除菌イオン」の効果で、トイレ空間をまるごと快適にする、空気浄化機能を搭載。シンプルなデザインに充実の機能。

トイレの新しいカタチ、サティス。

# satis



 **除菌イオン** 搭載、satis誕生。  
プラズマクラスターイオンによる空気浄化 (D-118Aタイプ)